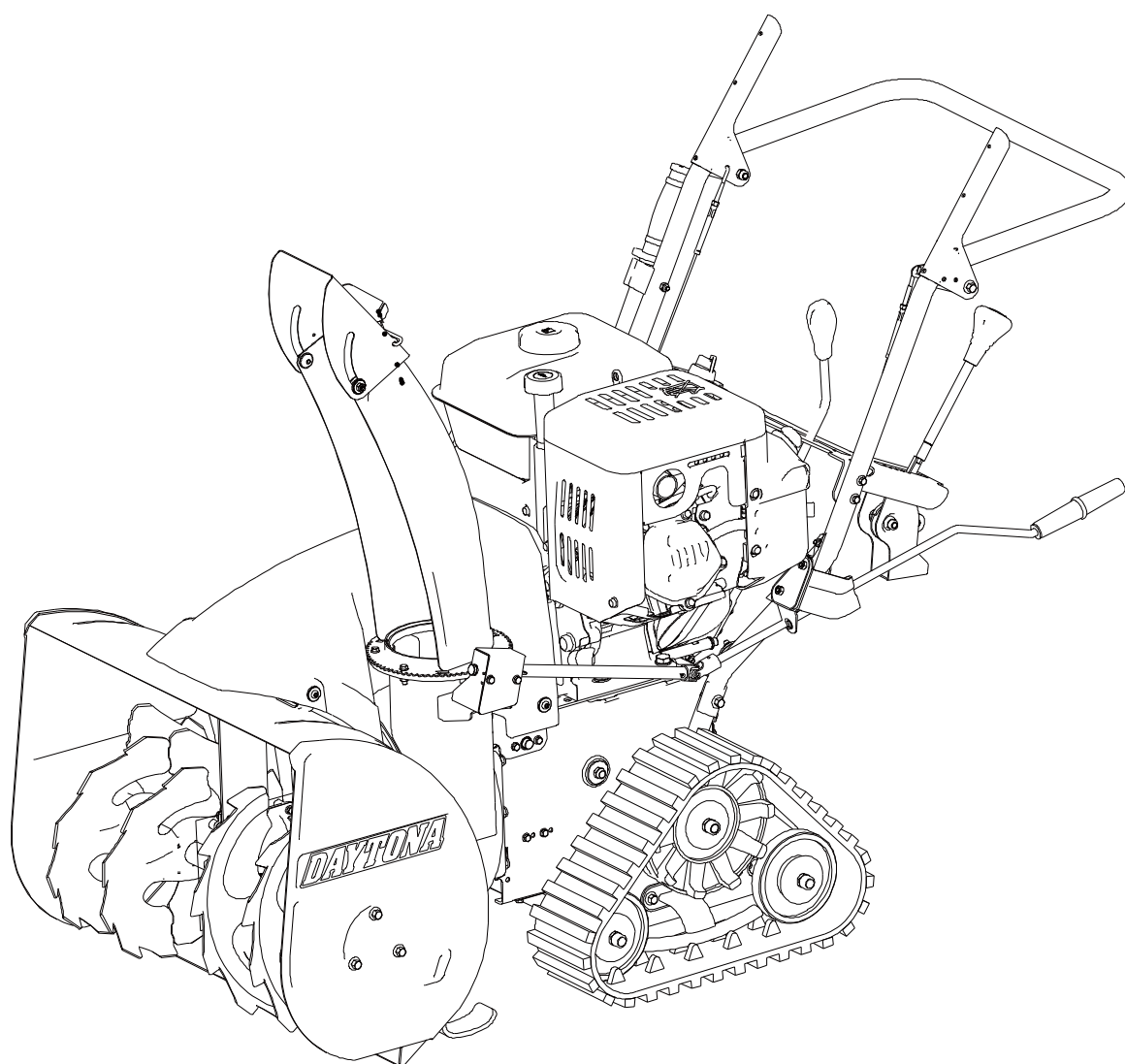


除雪機

DS-9260

取扱説明書



目次

ページ

1. 除雪機を安全に使用するために	2
作業前の注意	
作業中の注意	3
作業後の注意	
2. 各部の名称	4
緊急停止つまみ	6
エンジンスイッチ	
燃料開閉つまみ	7
チョークレバー	
燃料プライマリーポンプ	8
エンジン回転調節レバー	
速度調節レバー	9
走行クラッチレバー	
オーガクラッチレバー	10
投雪口上下レバー	
投雪口回転ハンドル	11
スライダ、スクレーパ	12
雪かき棒	13
バッテリー	
ガソリントankキャップ	14
オイル点検口	15
他のオイル点検口について	
3. エンジン始動	16
セルフスタータによる始動	
リコイルスタータによる始動	18
4. 運転のしかた	19
1. スクレーパの調整	20
2. エンジン始動	21
3. 除雪作業	
4. 上手な除雪のしかた	24
5. 除雪機の停止	25
6. 日常点検	26
7. 点検整備の方法	28
8. 主要諸元	37
9. トラブルシューティング	38

取扱説明書

DAYTONA®

*取り付けする前に必ずお読み頂き、内容をよく理解して正しくお使いください。

*この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるよう大切に保管してください。

*この商品もしくはこの商品を取り付けた車両を第三者に譲渡する場合は、必ずこの取扱説明書も併せてお渡しください。

商品名	名称	商品NO.
	除雪機 DS-9260	87811

■ご使用前に必ずご確認ください■

※ 取扱説明書内の注意事項を守らずに使用した事による事故や損害について、当社では一切の責任は負いません。

※ 商品の保証については保証書裏面の保証規定に沿って行っております。保証内容をご理解のうえ、この取扱説明書と一緒に保管してください。

本書では正しい取り付け、取扱方法および点検整備に関する重要な事項を、次のシンボルマークで示しています。

⚠警告	要件を満たさずに使用しますと、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。
⚠注意	要件を満たさずに使用しますと、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

 実施	行為を強制したり指示する内容を告げるものです。	 禁止	禁止の行為であることを告げるものです。
 高温注意	表記の注意を告げるものです。	 火気厳禁	表記の注意を告げるものです。

⚠警告



禁止

- ・ 燃料補給を屋内や換気の悪い場所でしないでください。ガソリンは非常に燃えやすく爆発、火災の危険があります。

⚠注意



実施

- ・ 除雪機を使用する前に周囲にある危険物を除去してください。
オーガやフロアに巻き込まれるおそれがあるのでカーペット、ドアマット、紙類、ワイヤ、紐類などは事前に周囲から取り除いてください。



法令違反

- ・ 燃料を補給する場合には消防法に基づいた容器から行ってください。



その他

- ・ 商品の仕様は予告無く変更されることがあります。

DAYTONA 除雪機

DAYTONA 除雪機をお買い上げいただき誠にありがとうございます。お買いあげいただきました商品に関してお気づきの点、ご意見などございましたら、お買上げ販売店にお気軽にお申し付けください。

取扱説明書について

この取扱説明書はお買上げ頂いた除雪機を安全かつ効率よく作業するために編集されたものです。

本書には除雪機の正しい取扱方法、日常点検について説明してあります。

本書を良くお読みいただき、十分に理解したうえで除雪機を運転し操作に習熟してください。

※取扱説明書内の注意事項を守らずに使用したことによるいかなる事故、損害について当社は一切責任を負いません。

※本書で使用している写真、イラストは仕様変更等により実際の形状と一部異なる場合があります。

※本除雪機の仕様は予告なく変更される場合があります。

・この除雪機は一般公道では使用できません。

1. 除雪機を安全に使用するために

作業前の注意

- ・舗装路以外での除雪は石、木片、異物の飛び出しなど危険を伴いますので除雪しないでください。
- ・使用前に必ず定められた点検を行い、不具合のある場合は絶対に使用しないでください。
- ・燃料を補給するとき、燃料タンクや補給燃料のまわりでは火気に注意しタバコ、炎、火花を近づけないでください。
- ・燃料のガソリンは非常に引火しやすく、気化したガソリンが爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止し、屋内での補給は避け、やむをえず屋内で補給する場合は換気をおこなってください。
- ・燃料補給時は燃料給油限界位置を守り、燃料をこぼさないように補給し燃料キャップを確実にしめてください。燃料をこぼした場合にはきれいに拭き取りよく乾かしてください。
- ・屋内あるいは換気の悪い場所でエンジンを始動、運転しないでください。有害ガスにより中毒症状を引き起こすおそれがあります。
- ・屋根の上に積った雪や急傾斜地での除雪は行わないでください。除雪機が転倒して作業員や近くにいる人にケガをさせるおそれがあります。

作業中の注意

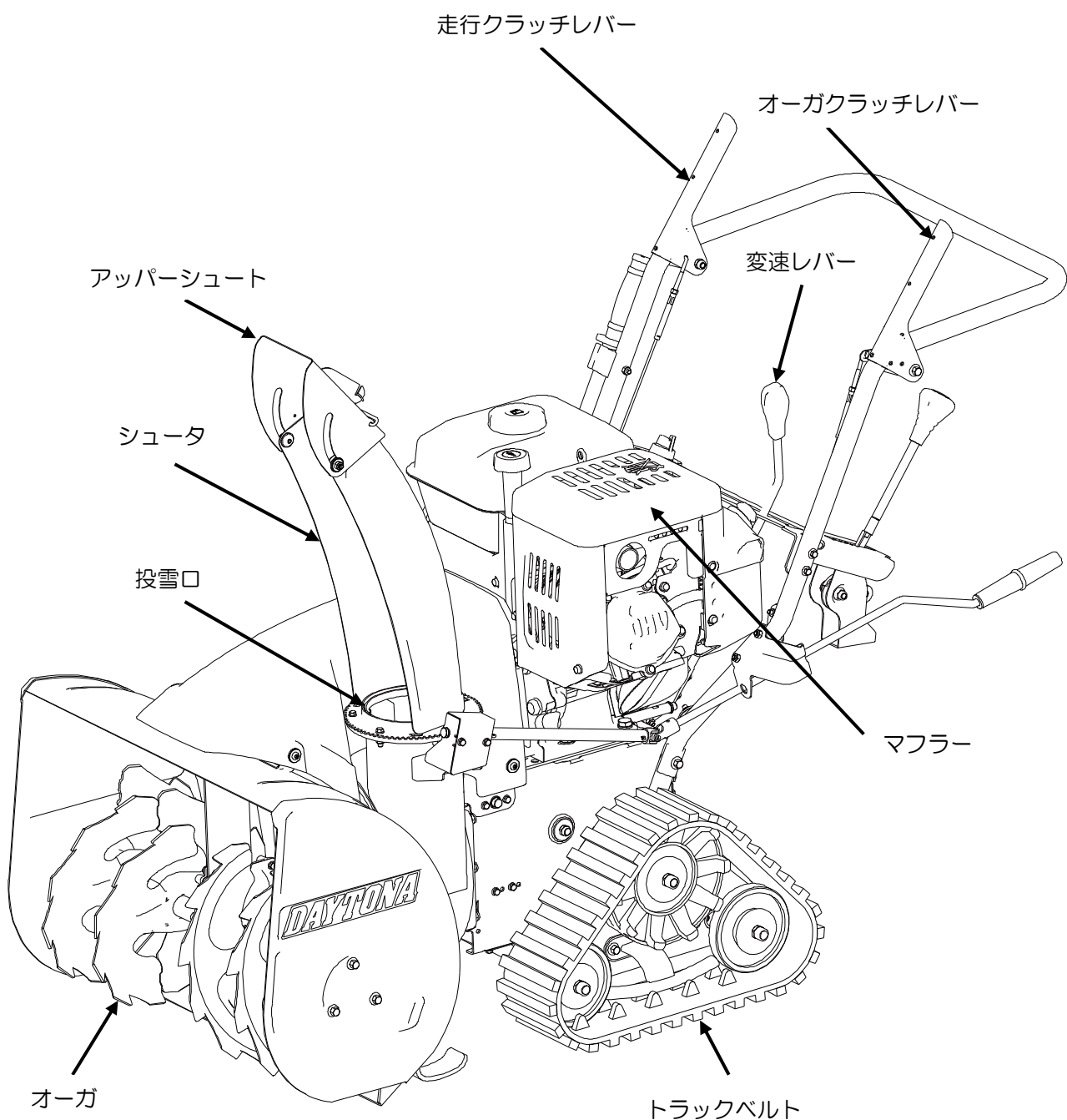
- 除雪部は回転しており誤って触れると大ケガや巻き込まれて死亡事故を引き起こすおそれがあるので手足や体を近づけないようにしてください。除雪作業範囲に人や動物が近づいた場合は除雪作業をやめてください。
- 投雪口を人、建物、車両などに向けないでください。石や異物などを含んだ雪でケガ、損害をあたえるおそれがあります。投雪方向は状況に応じて適切に調節してください。
- 新雪であっても、雪の中に木の枝や石など異物が混じっている場合があります。それらが投雪口以外に除雪部から前方に放出されることがありますので、前方にも注意が必要です。
- 除雪部および投雪口に雪がつまった場合にはエンジンを停止し回転部の停止を確認してから付属の雪かき棒を使用して雪を取り除いてください。
- エンジンを運転（アイドリング）した状態で除雪部および投雪口に手足を入れないでください。巻き込まれて大ケガや死亡事故につながるおそれがあります。
- 急発進は思わぬ事故の原因となりますので絶対に行わないでください。発進するときは走行クラッチレバーを徐々に握りゆっくり発進してください。
- 除雪中は足元が滑りやすく転倒するおそれがあるのでハンドルをしっかり握り、方向転換は平坦な場所を選び走行速度を低速にしておこなってください。
- 傾斜地を横切るように除雪しないでください。除雪機が転倒し大ケガをおうおそれがあります。やむをえず傾斜地で方向転換する場合は除雪機が平坦地とは異なる動きをする場合がありますので速度を落とし十分注意しておこなってください。
- 複数の除雪機を同時に使用する、一台の除雪機を複数名で使用するなど共同作業はおこなわないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 除雪中異物を巻き込んだり、当たったりした場合にはただちに運転を停止し、回転部が停止していることを確認してから損傷をしらべてください。損傷部分を修理せずに再始動すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 除雪中は音や振動に注意し異常な変化を感じた場合にはただちに運転を停止してその原因を調べてください。
- 駐車する場合には平坦な場所に駐車してください。傾斜地に駐車すると除雪機が移動するおそれがあります。

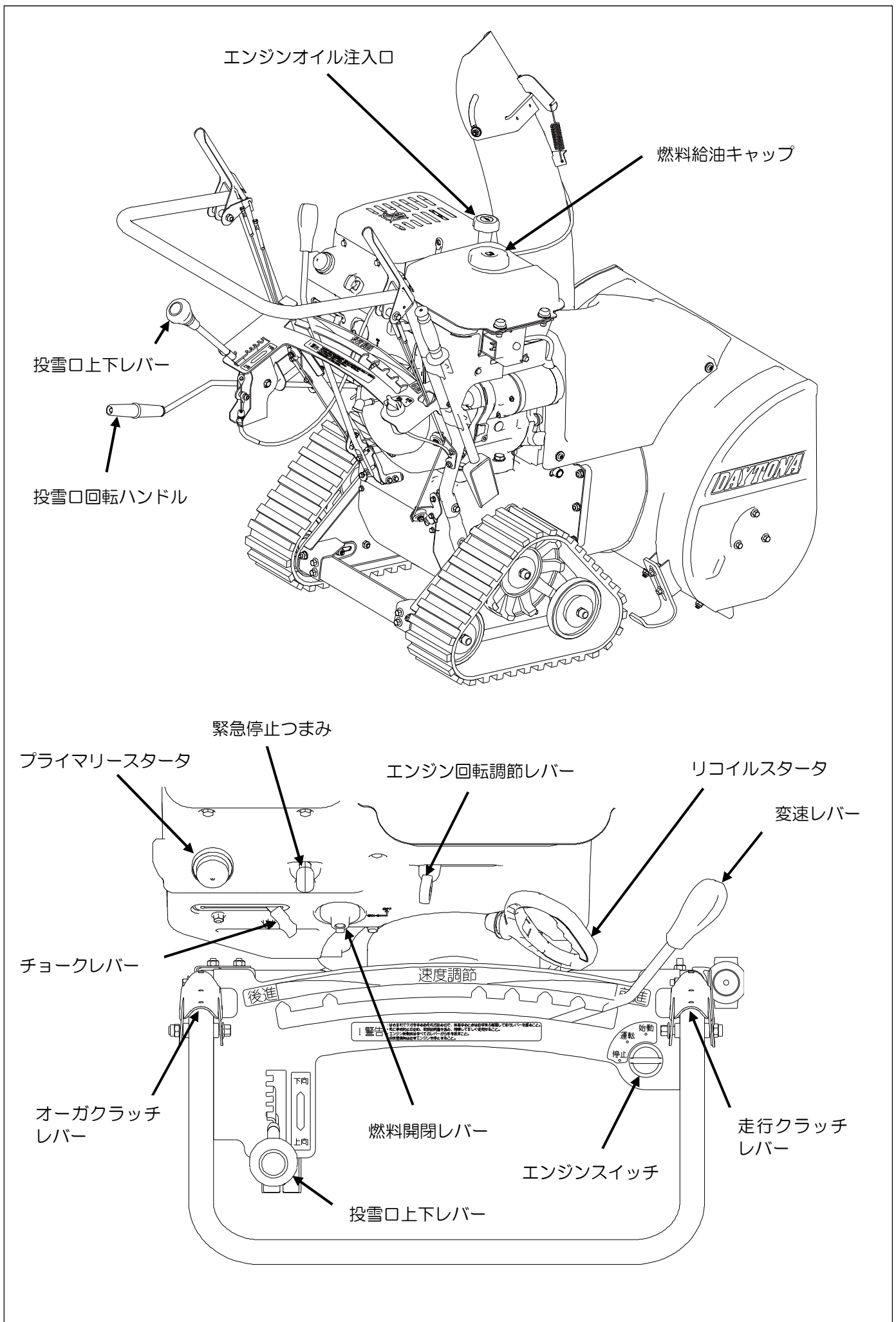
作業後の注意

- 除雪機から離れる場合には必ずエンジンを停止してください。
- 除雪機を格納する場合には付着した雪、水を払うなど凍結の予防に努めてください。
- ボディカバーをかける場合にはエンジンが冷えたのを確認してから行ってください。エンジン停止直後にボディカバー等をかけると火災のおそれがあります。
- 長期保管時には燃料タンク、キャブレタ内の燃料を抜き取り火気から遠ざけて保管してください。抜きとった燃料は引火、爆発のおそれがありますので所定の金属製タンクに保管してください。

- 清掃、点検は必ずエンジンを停止した状態でおこない、誤ってエンジンが始動しないようプラグキャップを取り外してください。エンジン停止直後はエンジン本体、マフラー、その周辺は非常に熱くなっています。やけどをおわないよう十分に冷えたのを確認してから作業してください。
- 駐車、保管する場合には周りに枯れ草、紙、油脂、木材、プラスチックなどの燃えやすいものがある場所をさけてください。マフラーや排気ガスの熱により火災をひきおこすおそれがあります。
- 建物の外壁や植え込みなどの近くに駐停車する場合には排気ガスが直接当たらないようにしてください。

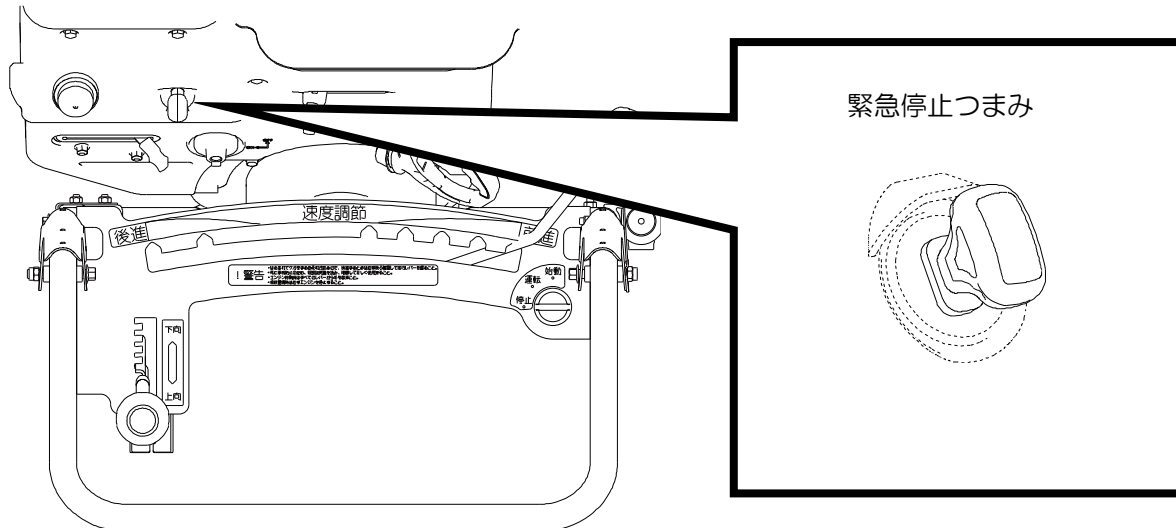
2. 各部の名称





緊急停止つまみ

このノブがエンジンから引き抜かれるとエンジンが停止します。エンジン通常運転時はこのノブを確実に奥まで差し込みます。エンジン緊急停止が必要な場合にご使用ください。



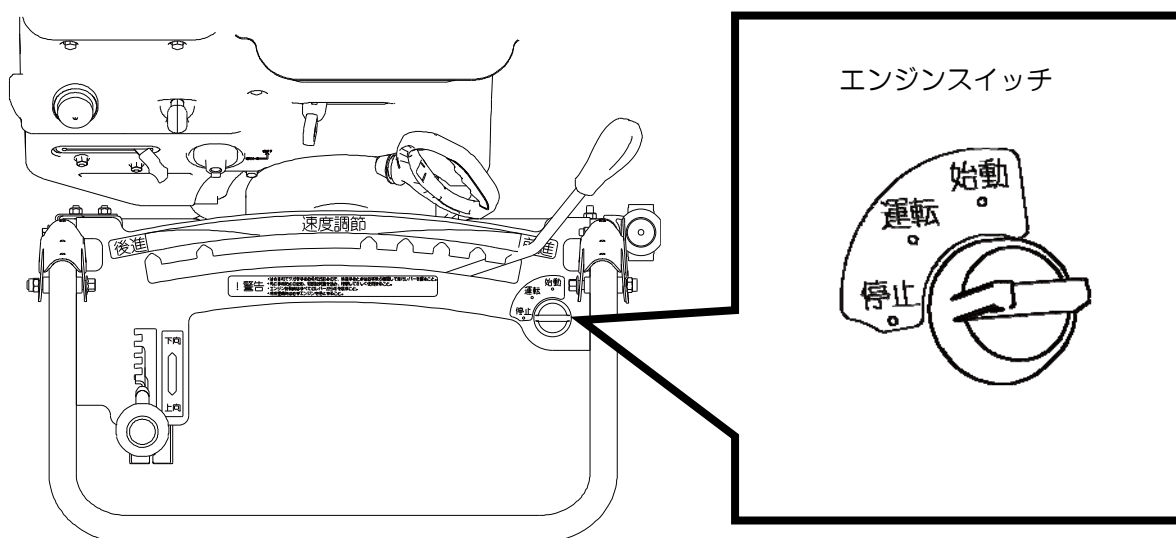
エンジンスイッチ

エンジンの停止、運転、始動を行うさいに操作します。

停止 エンジン停止位置です。キーの抜き取り、差し込みはこの位置です。

運転 エンジンを運転するときの位置です。点火、充電系統が接続します。

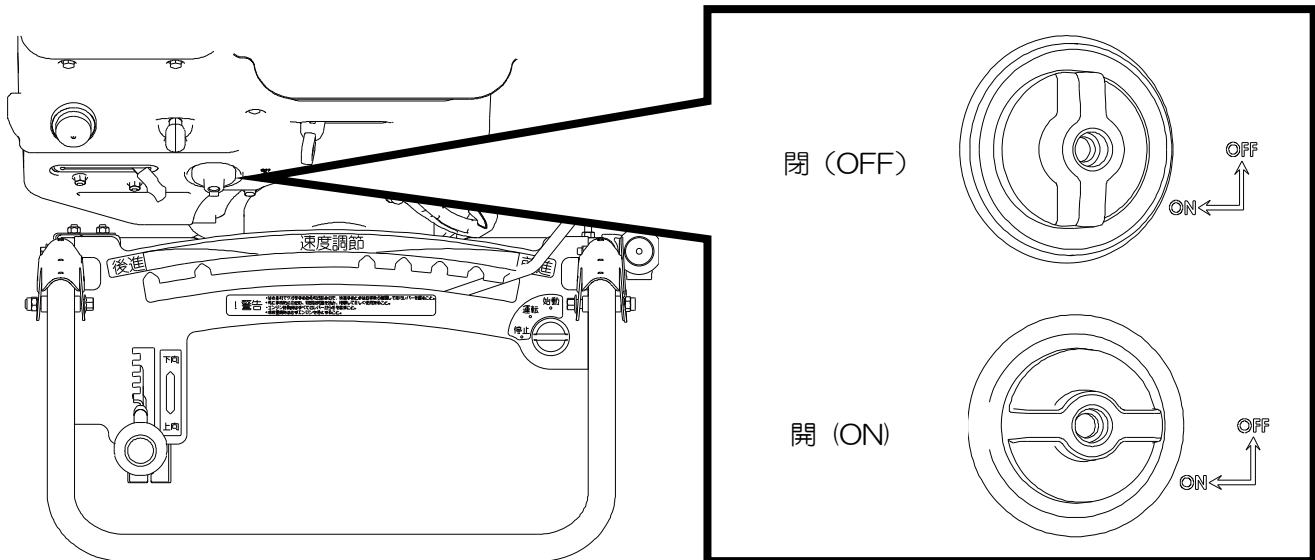
始動 エンジンを始動するさいにこの位置まで回すとスターターモーターが回りエンジンが始動します。エンジンが始動しキーから手をはなすと運転位置に戻ります。



燃料開閉つまみ

燃料タンクからキャブレタ間の燃料通路を開閉します。

エンジン運転時はつまみを水平にして開き（ON）、エンジン運転時以外はつまみを垂直にして閉じ（OFF）にしてください。



警告



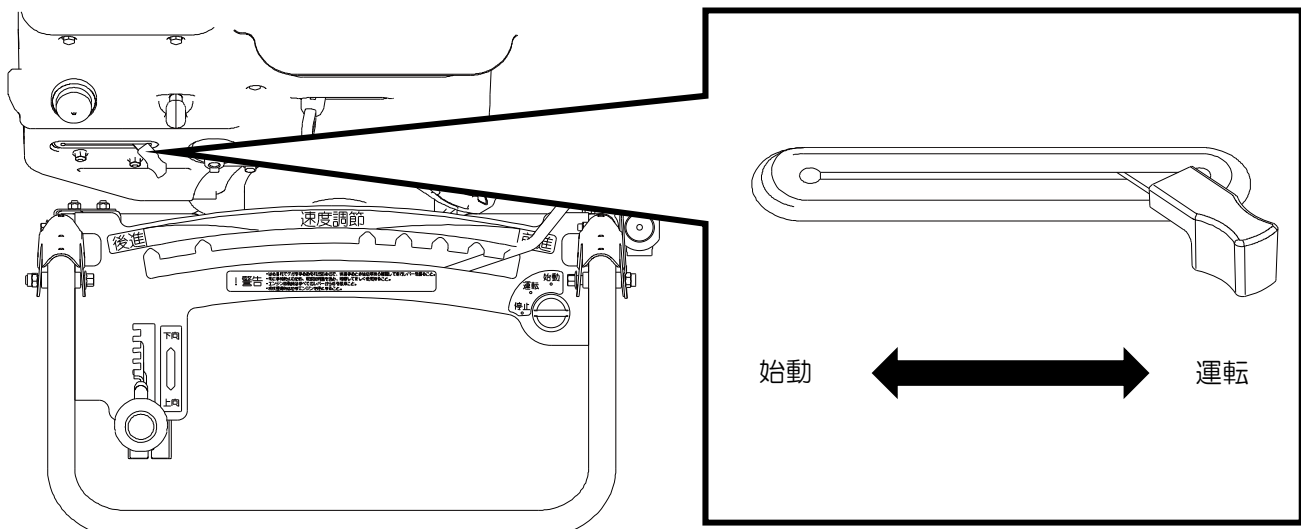
実施

除雪機を整備点検するときや、運搬、保管時など除雪機が傾く場合には必ず燃料開閉レバーを” 閉 (OFF) ” の位置にして燃料漏れを防止してください。燃料が漏れ出すと引火、火災のおそれがあります。

チョークレバー

エンジンを冷間始動するときに使用します。左側にレバーを一杯に倒します。

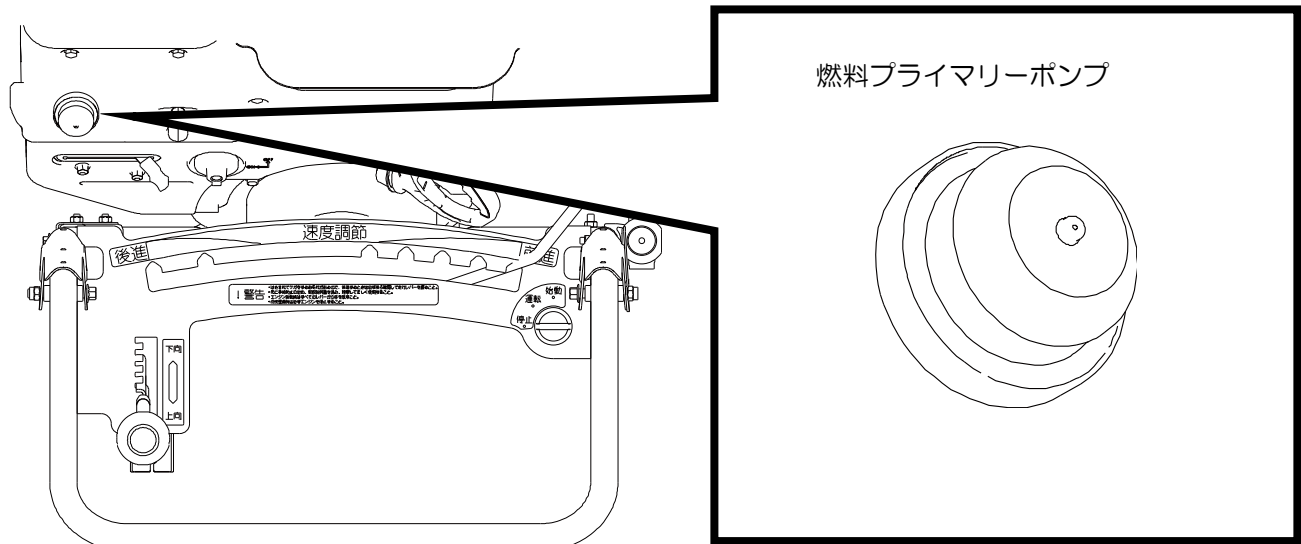
エンジンが始動し回転が安定したらレバーを右側に戻してください。



燃料プライマリポンプ

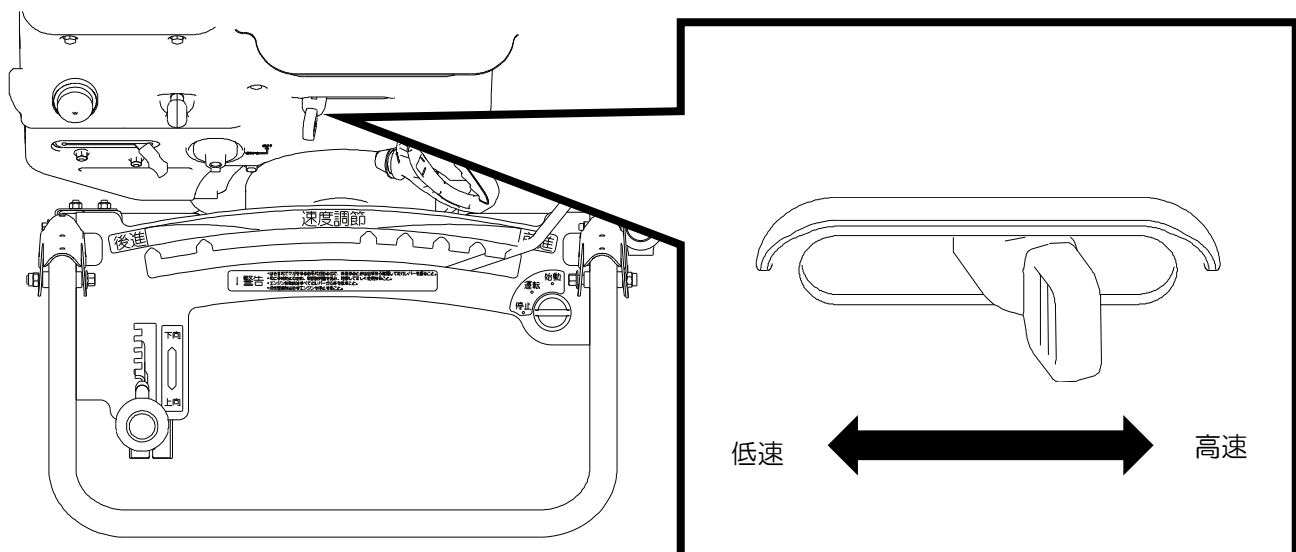
気温が氷点下で、チョークレバーではエンジンが始動しにくいときに使用します。

ポンプを2, 3回押してください。押す回数が多すぎるとかえってエンジンが始動しづらくなります。チョークレバーとの併用はしないでください。



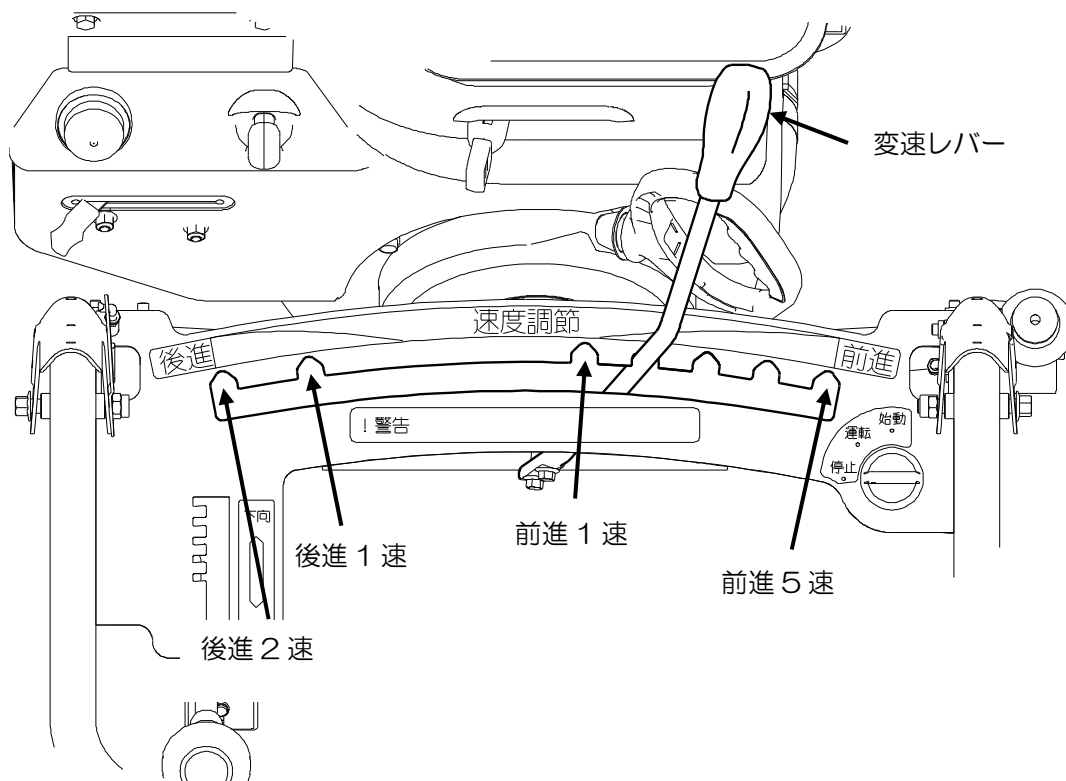
エンジン回転調節レバー

エンジン回転を調節します。始動時は低速、除雪作業時は高速の位置で使用してください。



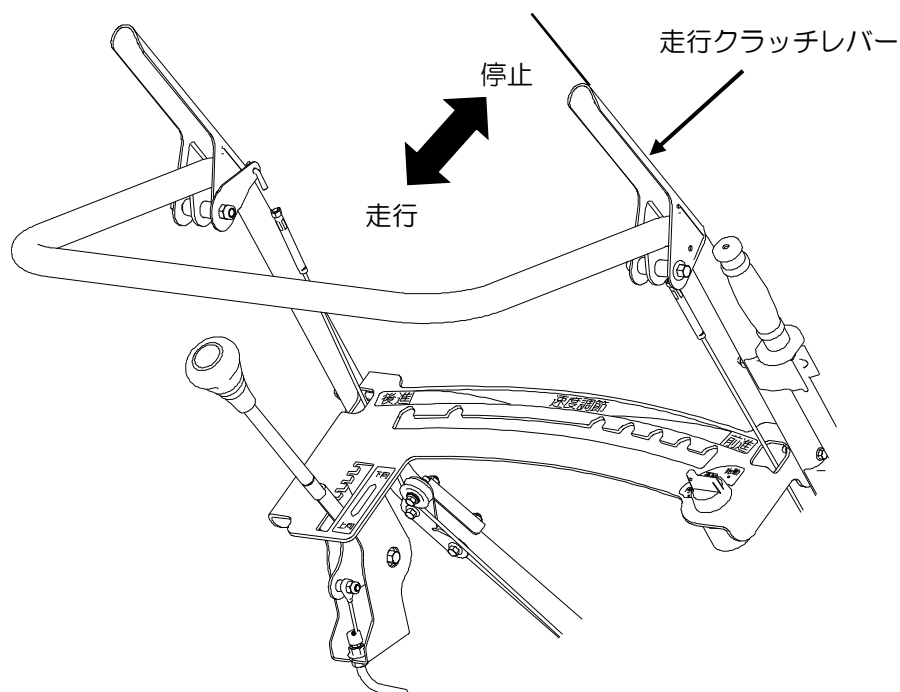
速度調節レバー

除雪機の前進、後進の選択をします。前進 5 段、後進 2 段になっています。



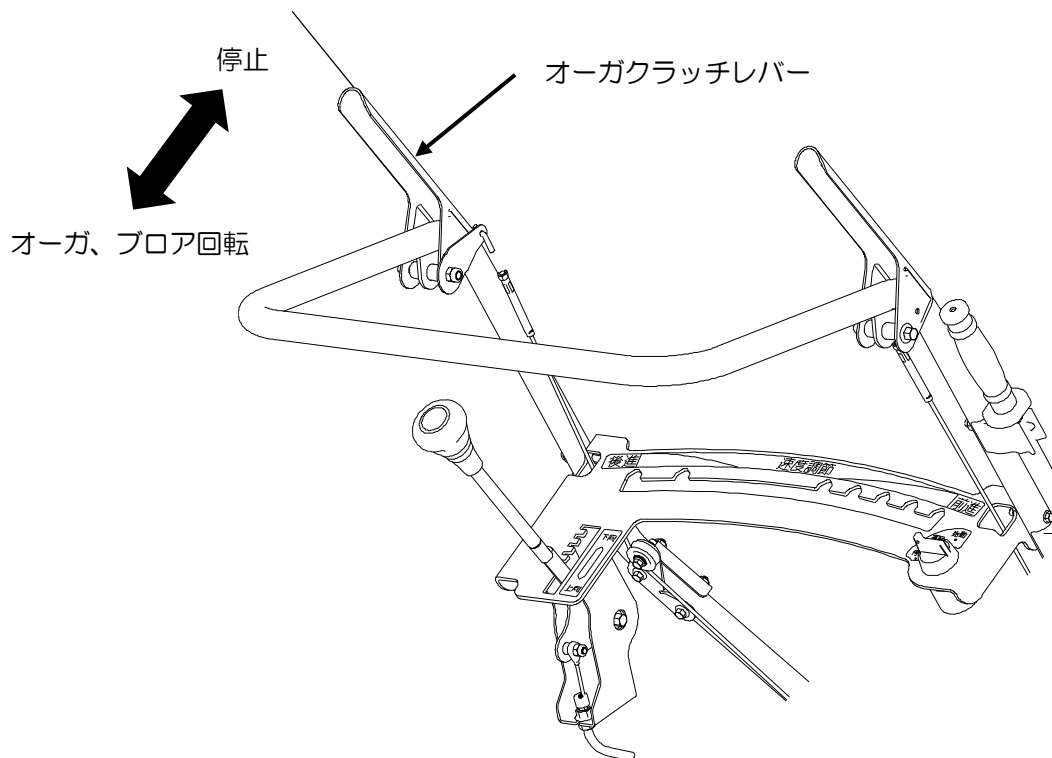
走行クラッチレバー

走行クラッチレバーは握ると走行します。急激に握ると急発進する場合がありますので走行を開始するときはゆっくりとレバー握ってください。



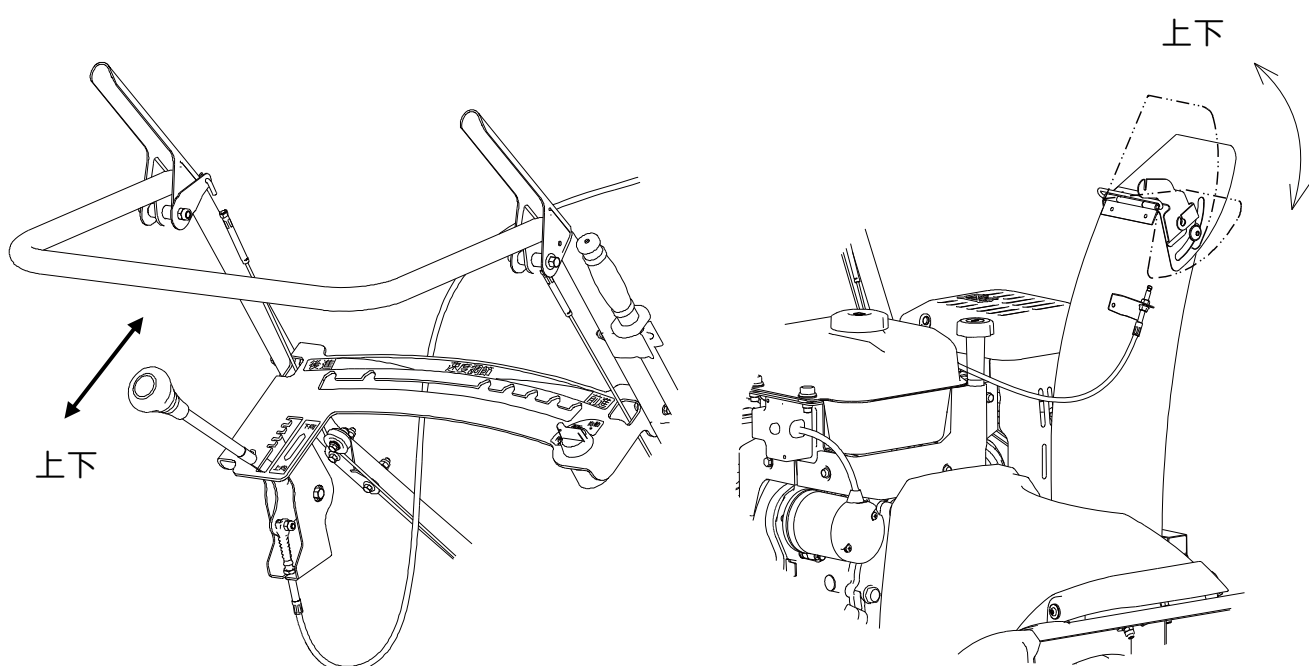
オーガクラッチレバー

オーガクラッチレバーを握るとオーガとブローアが回転し除雪を開始します。



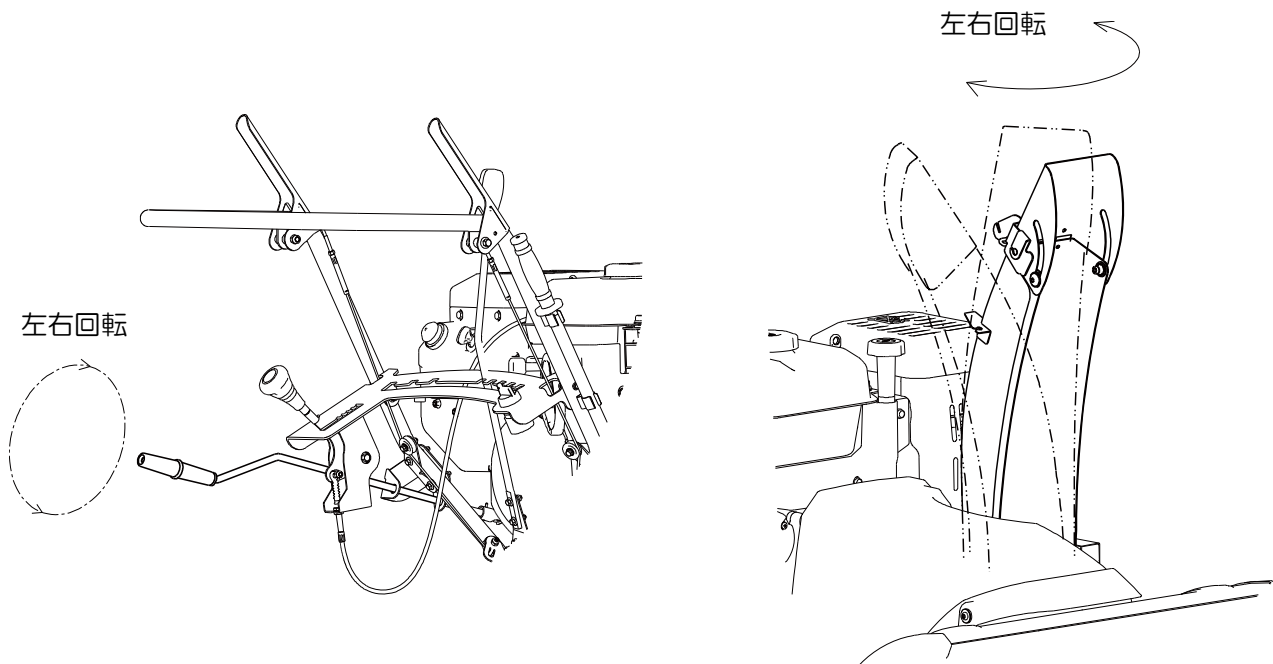
投雪口上下レバー

投雪口の向きを上下させることにより投雪距離を変化させます。



投雪口回転ハンドル

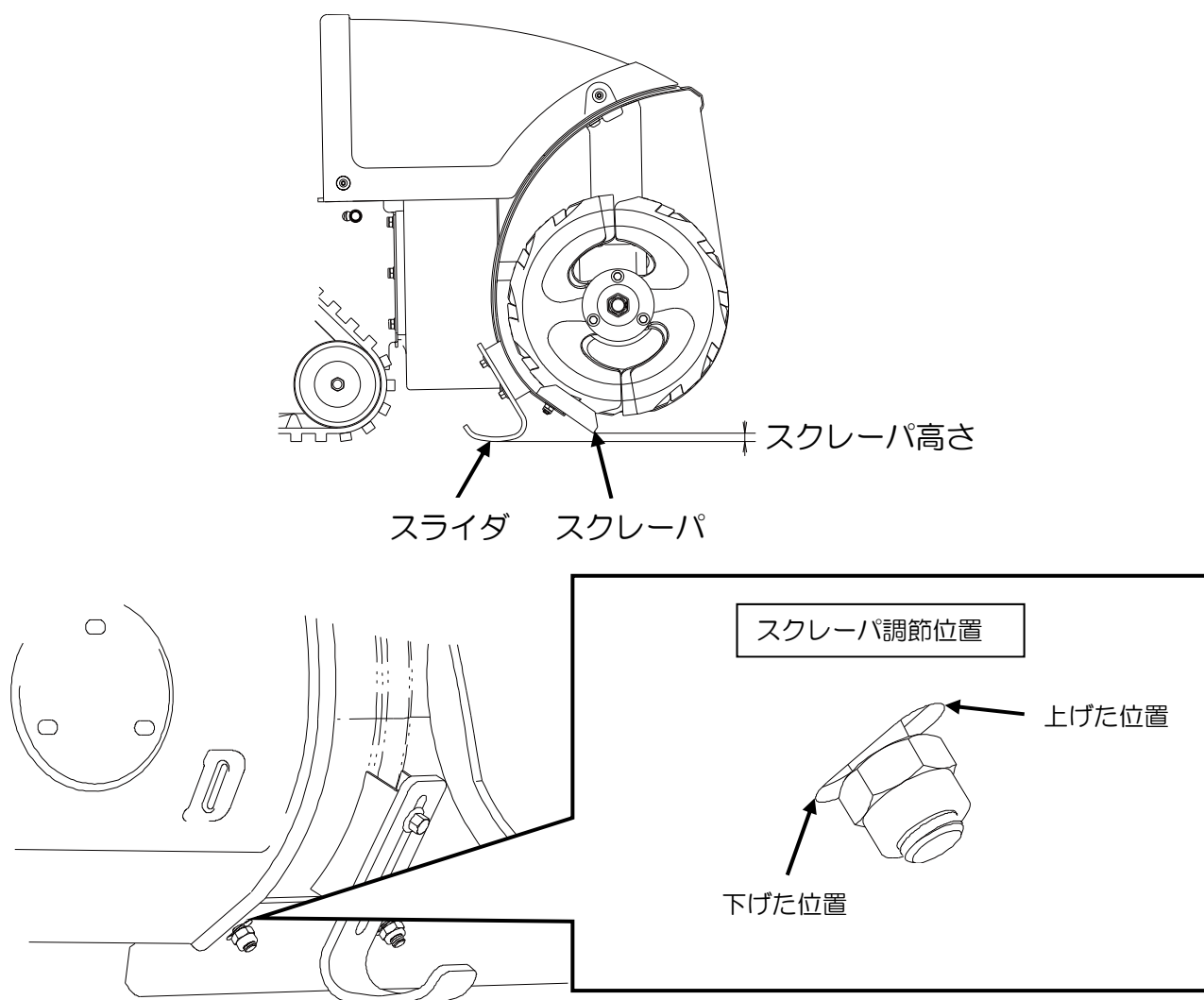
投雪口の方向を変えるときに使用します。ハンドルを回した向きに投雪口が回転します。



⚠注意

投雪距離や方向をかえるときは人や建物、車両に注意して操作してください。

スライダ、スクレーパ



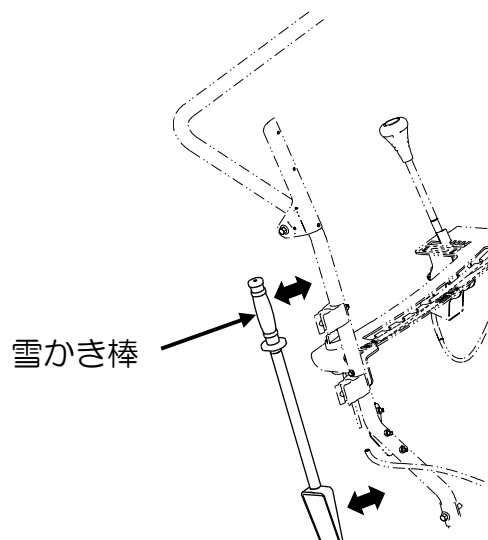
スライダとスクレーパを除雪する雪質、路面状態にあわせて調節します。

左右のスライダは平滑な路面に除雪機を置いた時にスライダの左右が路面に均等に当たるように調節します。

雪質	スクレーパ調節	スクレーパ高さ
新雪/一般	上げた位置	8～11mm
堅雪	上げた位置	10～15mm
凸凹路面除雪	下げた位置	25～30mm

雪かき棒

雪かき棒が右ハンドル部分に装着されております。雪がオーガや投雪口に詰まったときに使用してください。



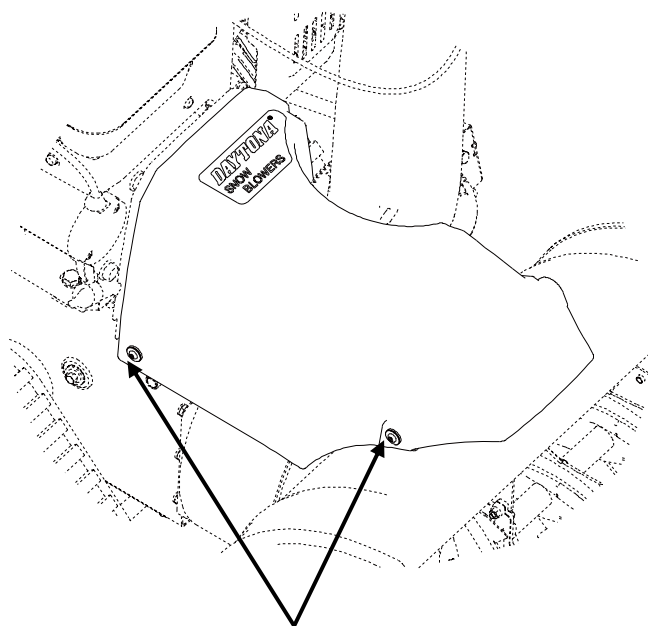
バッテリー

バッテリーはメンテナンスフリーバッテリーです。

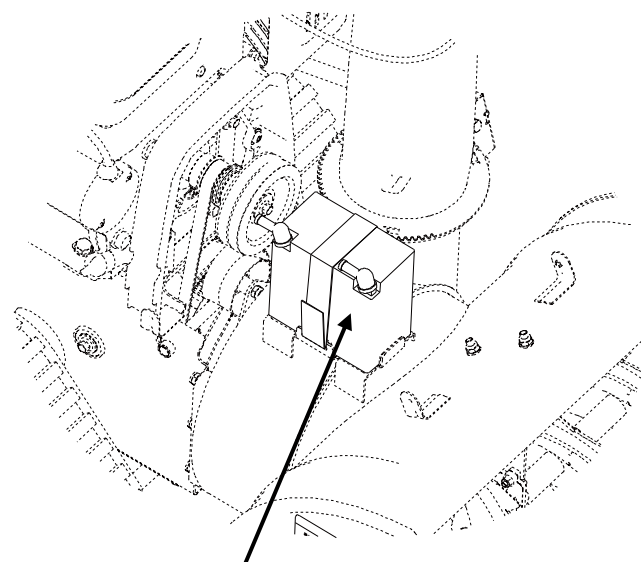
長期保管について

長期保管する場合はバッテリーの⊖端子を外してください。

長期保管中バッテリーは6ヶ月に1度補充電を行ってください。



M6 ネジ4本を取り外し
カバーを取り外す

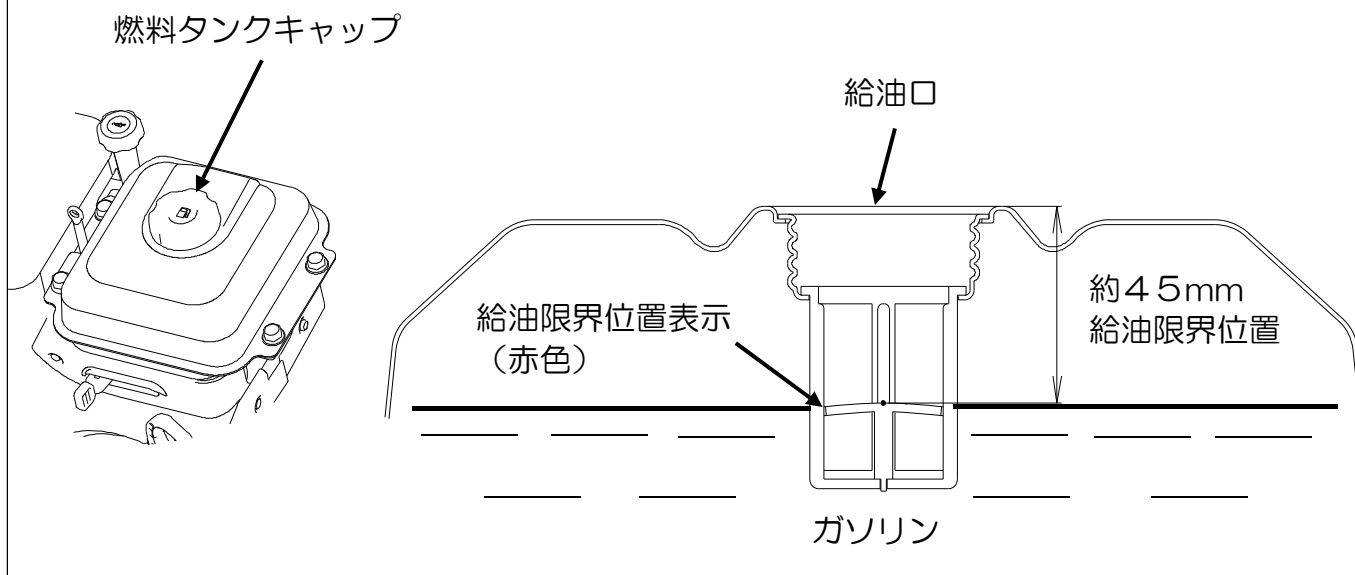


バッテリー

ガソリントankキャップ

タンクキャップを開けてガソリンの液面を確認します。図の給油限界位置まで補給してください。

燃料タンク容量：4ℓ



燃料補給

自動車用無鉛レギュラーガソリンを使用してください。

- 補給するときは燃料キャップを外し給油口から燃料がこぼれないようにゆっくり補給してください。
- 燃料は給油限界位置（給油口内赤色表示）までとしてください。これ以上入れると燃料膨張により燃料が吹き出る場合があります。
- 補給後は燃料キャップを右に一杯に回しカチカチと空回りするまで締め付けてください。

取扱上の注意

- 無鉛レギュラーガソリンを必ず使用してください。無鉛レギュラーガソリン以外の燃料を使用するとエンジンや燃料系統を損傷する原因となります。
- 長期間保管したガソリン、不適切な燃料添加剤を使用するとエンジン破損や故障の原因となります。



火気厳禁

ガソリンは引火しやすく、爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給、取り扱う際には以下を守ってください。

- エンジンを停止する。
- 常に換気を行う。
- 火気厳禁
- 身体に帯電した静電気を除去する。除雪機や他車両の金属部分に触れると静電気を放電することができます。
- 静電気の放電火花が気化ガソリンに引火し火傷を負うおそれがあります。
- ガソリンは消防法に適合した容器からこぼさないよう、ゆっくり補給してください。こぼれた場合には布などで完全に拭き取り引火に注意して処分してください。
- ガソリンは給油限界を超えて補給しないでください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからもれ出ることがあります。

⚠️ 注意



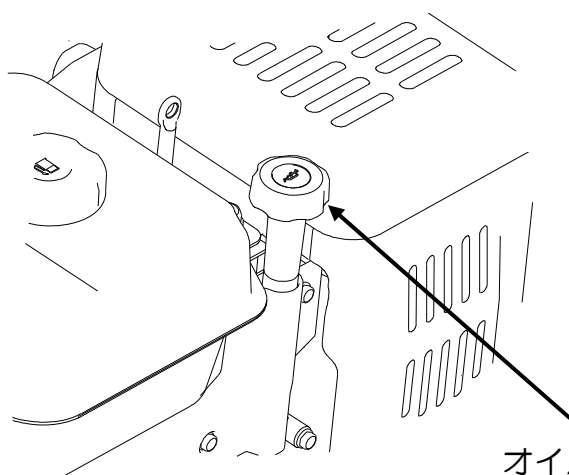
実施

燃料補給時に燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。
燃料タンクに雪が入るとエンジン停止、始動困難など不調の原因となります。

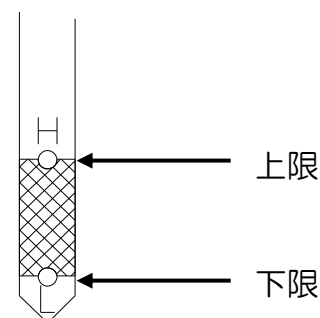
オイル点検□

点検

除雪機を水平な路面に置いてオイル点検口をはずし、上限と下限の間にオイルがあるか点検してください。少ない場合はオイル点検口から新しいオイルを補給します。



オイル点検口



オイルレベルゲージ

補給

推奨オイル：4 サイクルガソリンエンジンオイル

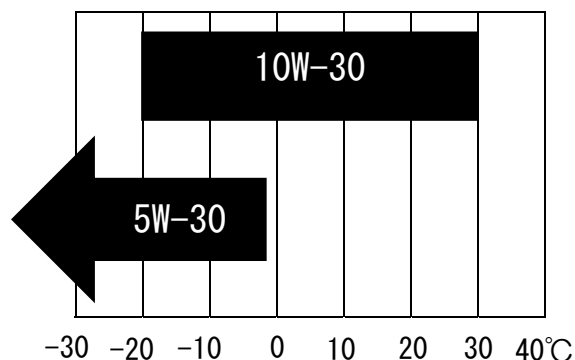
通常：SAE 10W/30

外気温が-20℃以下になる場合：5W/30

API 分類：SF または SG 級相当品

全オイル容量：1.1 ℓ

オイル交換時容量：0.85～1.05 ℓ



取扱上の注意

オイル補給後は点検口キャップを確実に締付けてください。

他のオイル点検口について

オイル点検口はエンジン上部、エンジン左右、合計 3 箇所ありますがエンジン上部のみ使用します。他の 2 箇所は点検口キャップを確実に締付けておいてください。

3. エンジン始動

本機にはセルフスタータとリコイルスタータ、2 種類の始動方法があります。

警告



毒物注意

- ・屋内あるいは換気の悪い場所でのエンジン始動を行わないでください。有害ガスにより中毒症状を引き起こすおそれがあります。



禁止

- ・傾斜面でエンジン始動を行わないでください。除雪機が空走するおそれがあります。

セルフスタータによる始動

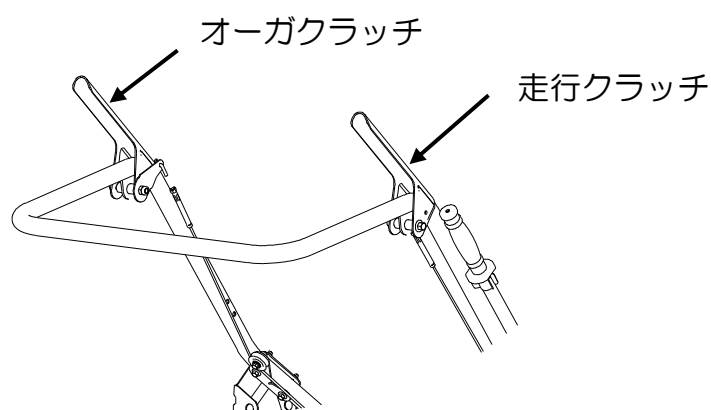
1) 走行クラッチレバーとオーガクラッチレバーが停止状態であることを確認します。

警告



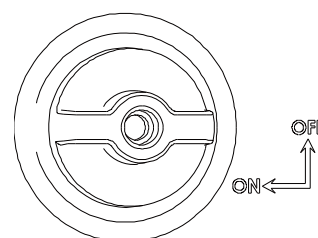
禁止

エンジンを始動する時はオーガクラッチレバー及び走行クラッチレバーを操作しないでください。エンジンが始動すると同時に除雪機が動き出し死傷事故を引き起こすおそれがあります。



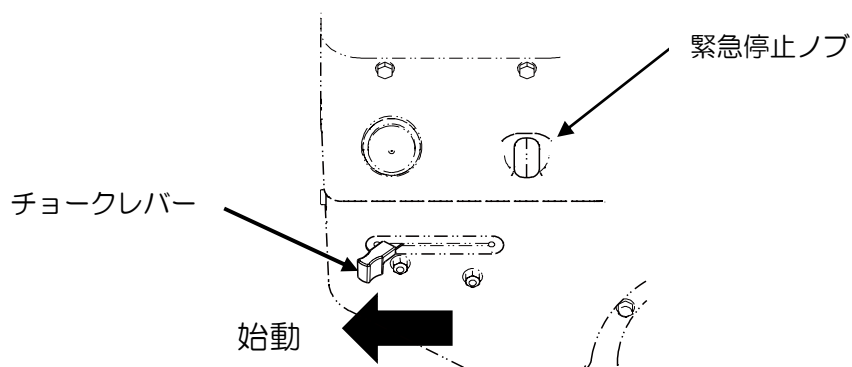
2) 燃料開閉つまみを開（ON）の位置に合わせます。

（つまみが水平方向）

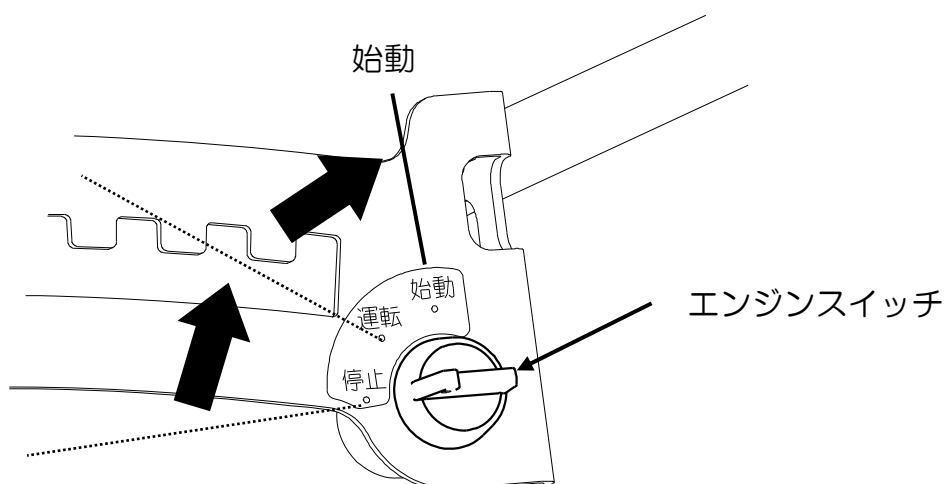


3) チョークレバーを左いっぱい倒します。

4) 緊急停止ノブが確実に奥まで差し込まれているのを確認します。



5) エンジンスイッチを始動位置まで回してスタータを回転させます。

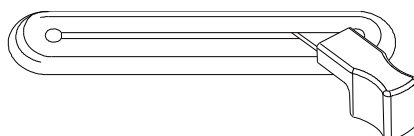


スタータを5秒間以上回してもエンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを運転位置に戻し7～8秒ほど間をあけてから再度スタータを回してください。

6) エンジンが始動したら暖気運転を行います。

エンジン回転を確認しながらゆっくりチョークレバー右に倒します。

エンジン回転が安定しチョークレバーを完全に右に倒したら暖気運転は完了です。



運転

リコイルスタータによる始動

バッテリー不調などでセルフスタータが使用できない時は下記手順に従いリコイルスタータによりエンジンを始動してください。

1) 走行クラッチレバーとオーガクラッチレバーが停止状態であることを確認します。

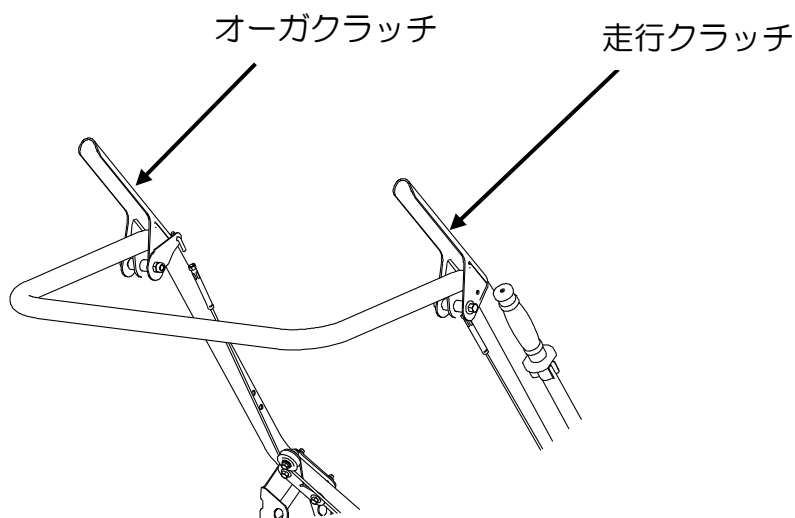


警告



禁止

エンジンを始動する時はオーガクラッチレバー及び走行クラッチレバーを操作しないでください。エンジンが始動すると同時に除雪機が動き出し死傷事故を引き起こすおそれがあります。

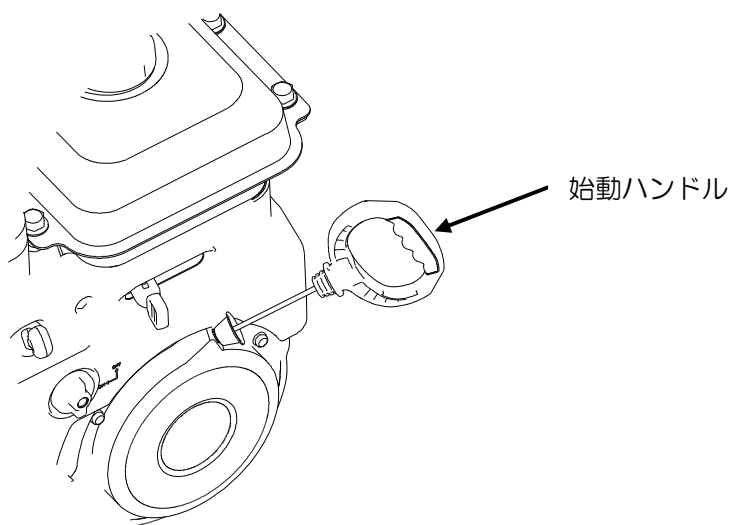


2) 燃料開閉つまみを OPEN の位置に合わせます。(つまみが水平方向)

3) チョークレバーを左いっぱい倒します。

4) エンジンスイッチを運転位置にします。

5) 始動ハンドルを軽く引き、重くなった所から勢い良く引き上げます。



エンジンが始動したら始動ハンドルを静かに元の位置に戻します。

⚠ 注意



実施

始動ハンドルを手離して戻さないで下さい。またエンジン回転中に始動ハンドルを操作しないでください。エンジン故障の原因となります。

6) エンジンが始動したら暖気運転を行います。

エンジン回転を確認しながらゆっくりチョークレバー右に倒します。

エンジン回転が安定しチョークレバーを完全に右に倒したら暖気運転は完了です。

4. 運転のしかた

除雪作業をする前に巻頭の“除雪機を安全に使用するために”をお読みにになり作業を行ってください。

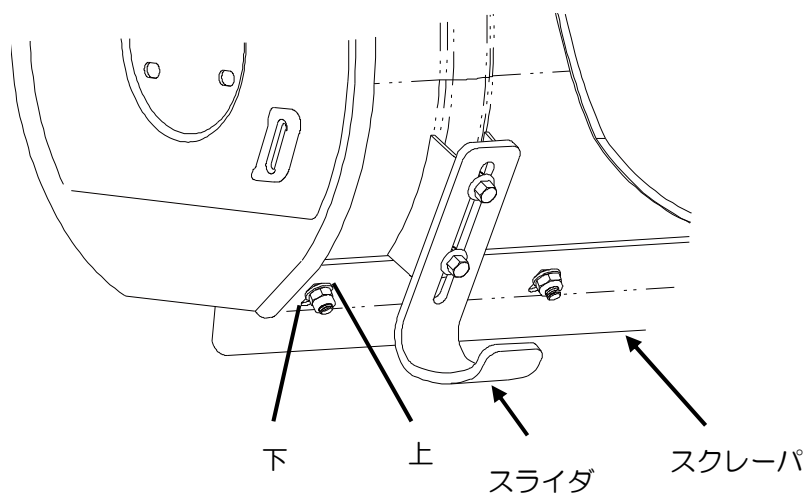
除雪作業に関する注意

- 除雪機を運転する場合にはハンドル後方中央に立ち、必ず両手で操作を行ってください。
- 除雪作業中に異常な、音、振動、においを感じたらすぐに作業を停止してください。

1. スクレーパの調整

最適な除雪作業をするためには雪質、路面状態、など環境に合わせた調整が必要です。

作業環境に合わせて、スクレーパ位置を調節してください。



調節例

雪質	スクレーパ位置	スクレーパと路面との隙間
新雪/一般	上げた位置	8～11mm
堅雪	上げた位置	10～15mm
凸凹路面除雪	下げた位置	25～30mm

調整手順

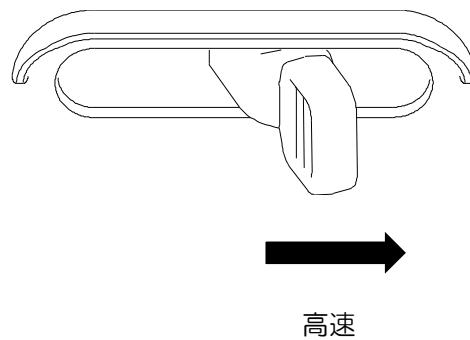
- 1) 平坦な舗装路面に除雪機を配置します。
- 2) スライダ、スクレーパの取り付けネジを緩めます。
- 3) スクレーパを調節し固定します。
- 4) スクレーパの下に木板などで目的の隙間を作ります。
- 5) スライダを地面に接地させ取り付けネジを締め付けます。
- 6) 木板を取り除きスクレーパと路面との隙間を確認します。
- 7) 各すきまが設定値になっている事を確認し、各取り付けネジを増し締めします。

2. エンジン始動

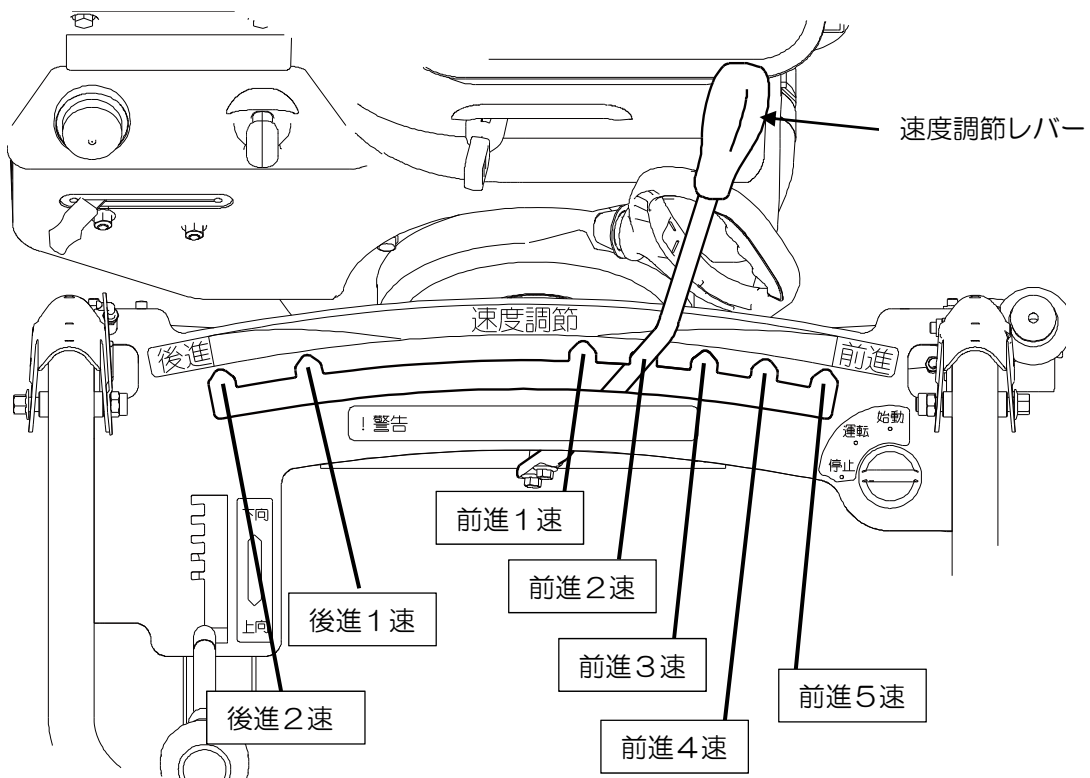
エンジン始動は 17 ページから 20 ページをご確認ください。

3. 除雪作業

- 1) エンジン回転調節レバーを右いっぱい倒します。



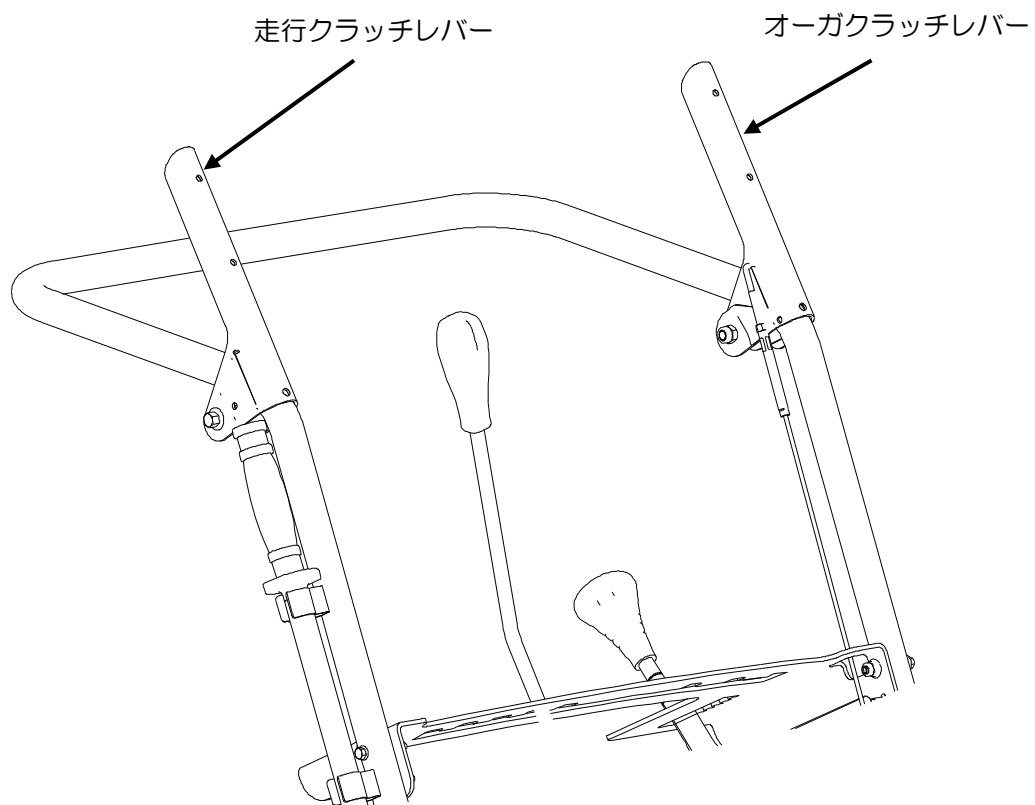
- 2) 積雪量、雪質に合わせて速度調節レバーを操作します。



速度調節レバー位置	適合雪質、用途
前進 1 速	堅雪
前進 2 速	一般除雪
前進 3 速	新雪
前進 4 速、5 速	移動
後進 1 速	後方への低速移動
後進 2 速	後方への通常移動

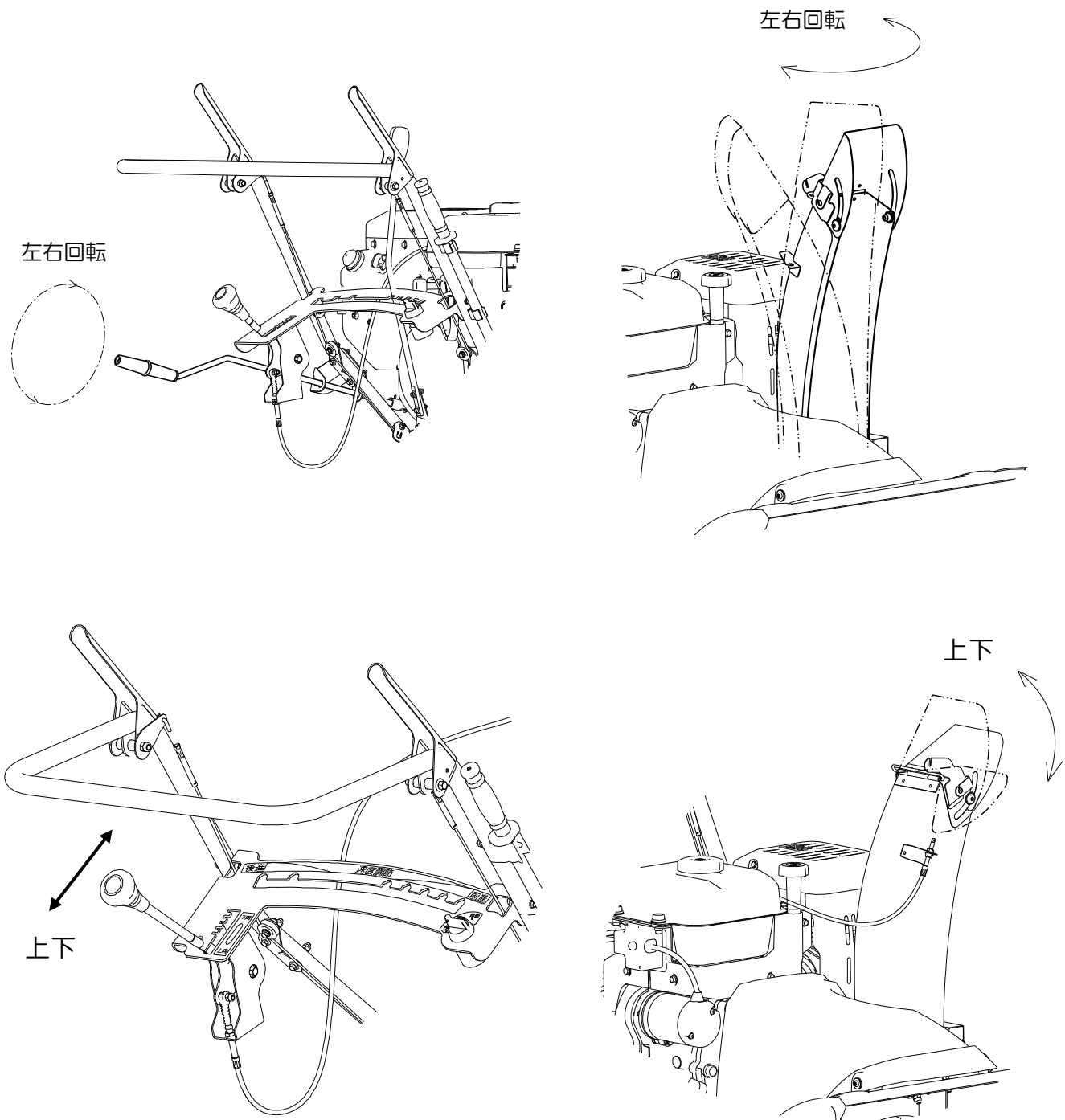
3) オーガクラッチレバーを握るとオーガが回転します。

4) 走行クラッチレバーを握ると走行します。



オーガのみ又は走行のみさせる場合は目的のレバーを握ります。

5) 投雪方向と距離を決定します。



⚠注意

投雪方向や距離を変更する場合は周囲の人や建物、車両などに注意して行ってください。

6) 投雪および走行を停止する場合はオーガクラッチレバーと走行クラッチレバーから手を離してください。

4. 上手な除雪のしかた

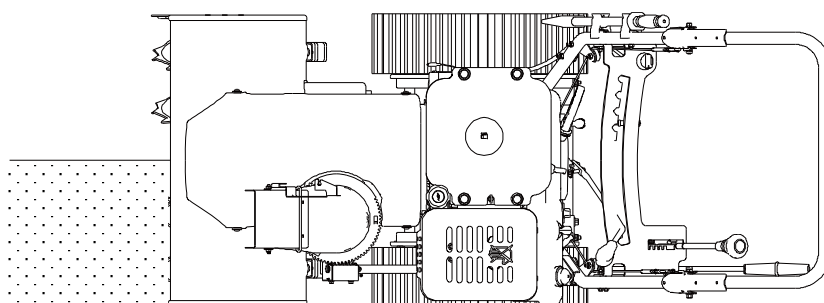
上手に除雪作業するためにはエンジン回転を落とさないように作業することが大切です。通常は速度調節レバーを2速の位置で作業を行います。雪による負荷によりエンジン回転が落ちるようであれば1速を使用します。

1速でもエンジン回転が落ちるような深い雪、圧雪、凍った雪などの負荷の高い作業は次項を参照して作業をおこなってください。

• 除雪幅の調整

除雪部分にかかる雪幅を半分程度として作業してください。

雪を除雪部分の半分程度とする。



• 断続除雪の方法

連続除雪でエンジン回転が落ちる場合は断続除雪を行います。

- 1) 走行クラッチから手を離し除雪機を停止させます。
- 2) オーガクラッチを握ったままオーガのみを回転させます。
- 3) 除雪部分の雪が排出されエンジン回転が回復したら走行クラッチレバーを握ります。
- 4) 1～3を繰り返し行う事で高負荷除雪を行います。

雪質、気温により除雪幅の調整と断続除雪を適切に組み合わせて作業してください。

• 雪が詰まった場合の対処法

⚠ 警告



実施

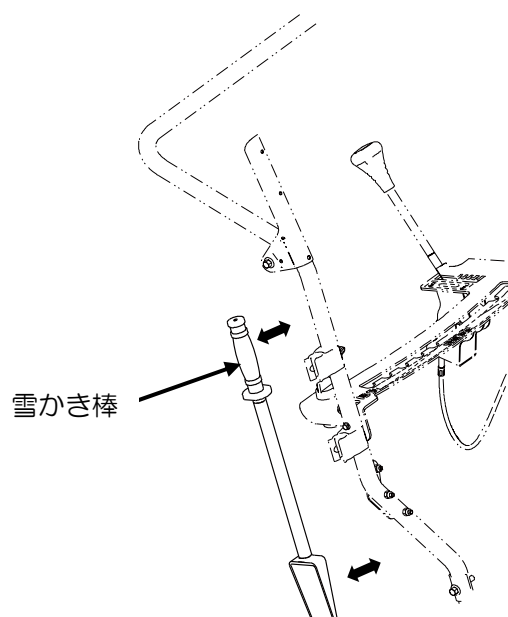
除雪部分または投雪口に雪が詰まった場合は、エンジンを停止しプラグキャップを取り外して誤ってエンジンが始動しないようにします。



禁止

エンジンが回転しているときに絶対に手を入れないでください。巻き込まれて死亡事故や大ケガの恐れがあります。

除雪部分または投雪口に雪が詰まった場合は雪かき棒で除去します。

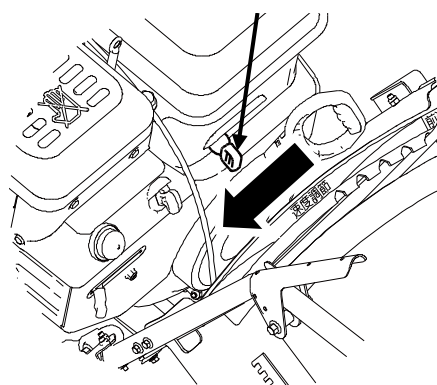


5. 除雪機の停止

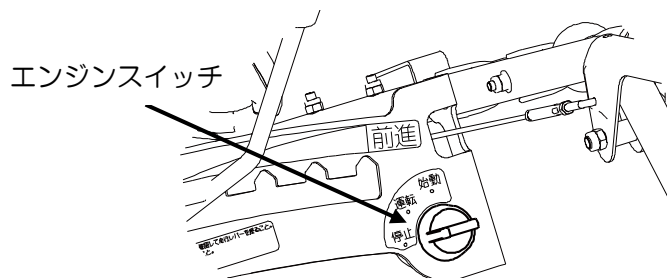
- 1) 走行クラッチレバー、オーガクラッチレバーから手を離し除雪部分の回転停止を確認します。

- 2) エンジン回転調節レバー
左側いっぱいに戻します。

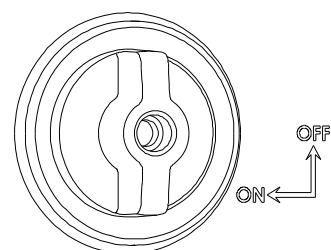
エンジン回転調節レバー



- 3) エンジンスイッチ
停止位置にします。



- 4) 燃料開閉つまみ
閉 (OFF) の位置にします。(レバーが縦方向)



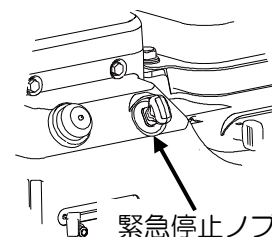
5) 作業終了後、雪をブラシで払うなどして雪を取り除いてください。

雪が付着したまま放置すると凍結して次の使用に差し障りがあるだけでなく故障の原因となります。

緊急停止

素早くエンジンを停止させる場合は緊急停止ノブを引き抜きます。

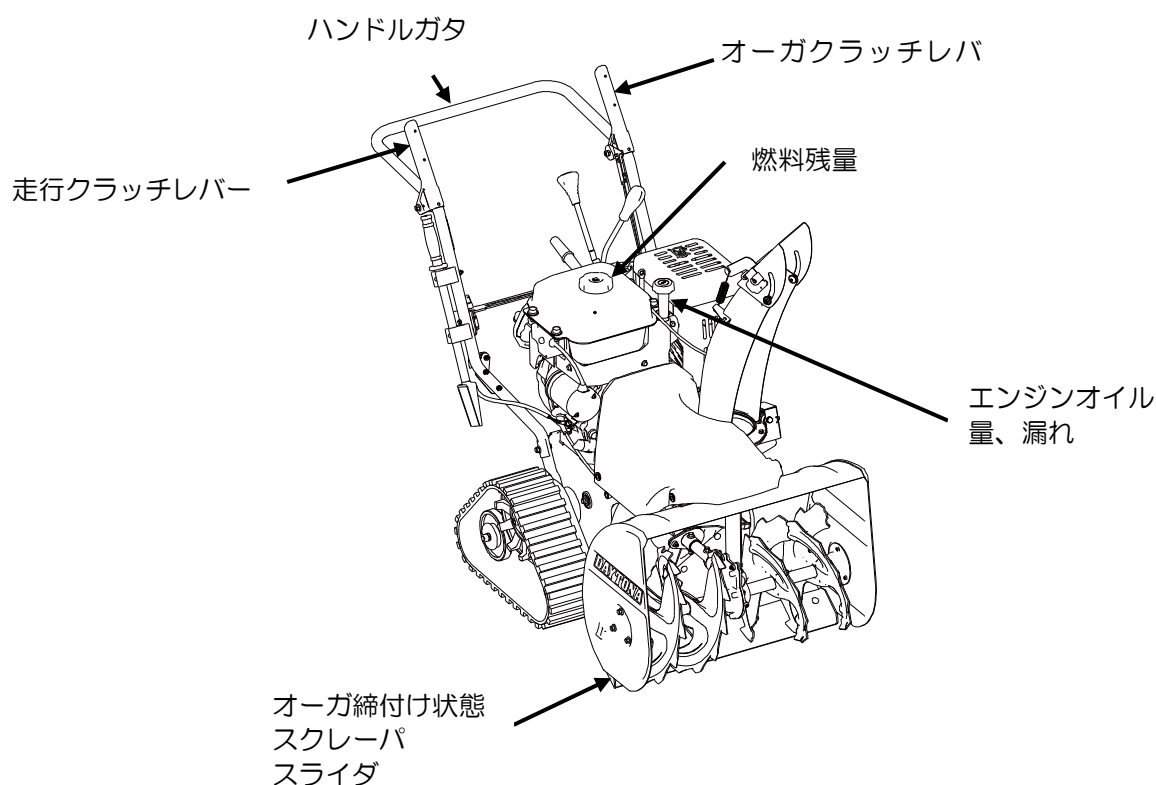
通常緊急停止ノブは奥まで確実に差し込んでおきます。



6. 日常点検

安心安全に除雪機をご使用いただくためには日常点検が必要です。以下の項目をご自身で行って下さい。

- | | |
|-----------------|---------------|
| ・エンジンオイル | オイル量、漏れの有無。 |
| ・燃料 | 残量はあるか。 |
| ・オーガ | 各部締付け状態、スクレーパ |
| ・ハンドル | ハンドルにガタはないか。 |
| ・走行クラッチレバー | 遊びの量。 |
| ・オーガクラッチレバー | 遊びの量。 |
| ・異常な音、振動はなかったか。 | |



点検項目		点検時期	作業前	初回点検 一ヶ月 又は 20時間 (1)	毎年		4 年毎
					除雪時期 前	除雪時期 後	
エンジンオイル	点検		○				
	交換			○	○		
点火プラグ	点検				○		
	交換						○
バッテリー	点検		○				
	補充電				○ (2)	○ (2)	
ウォームケース油量	点検				○		
	補充					○	
走行ベルト	点検			○	○		
	交換						○ (2)
オーガベルト	点検			○	○		
	交換						○ (2)
スライダ、スクレーパ	点検、調整		○		○		
トラックベルトの張り	点検、調整				○		
オーガ、フロア固定ボルト	点検		○				
各部締付け状態	点検		○			○	
オーガクラッチケーブル (遊び)	点検、調整				○		
走行クラッチケーブル (遊び)	点検、調整				○		
シュータ上下ケーブル (遊び)	点検、調整				○		
アイドル回転数	点検、調整				○ (2)		
吸排気弁すきま	点検、調整				○ (2)		
燃料タンク	清掃						○ (2)
燃料チューブ	点検				○		
	交換						○ (2)
燃料タンク、キャブレタ内燃料	抜き取り					○	
格納時給油、防錆	給油					○	

(1) 初回点検は期間の短い方で実施してください。

(2) 専門技術と工具を必要としますので、販売店ご依頼ください。

7. 点検 整備の方法

エンジンオイルの交換

エンジンオイルを長期間交換せずに使用していると内部部品の寿命を縮めます。

オイル量、交換時期を守りエンジンの保守に努めてください。

交換時期：

初回点検 一ヶ月または20時間運転後、

以降 年一回除雪時期前

推奨オイル：

4 サイクルガソリンエンジンオイル

通常：SAE 10W/30

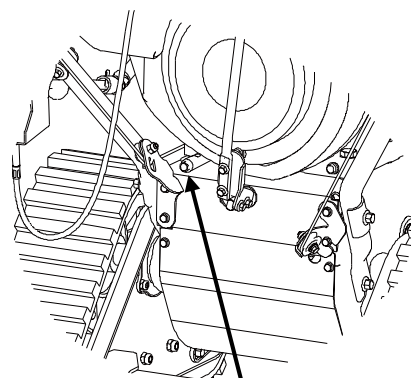
外気温が-20℃以下になる場合：5W/30

API 分類 SF または SG 級相当品

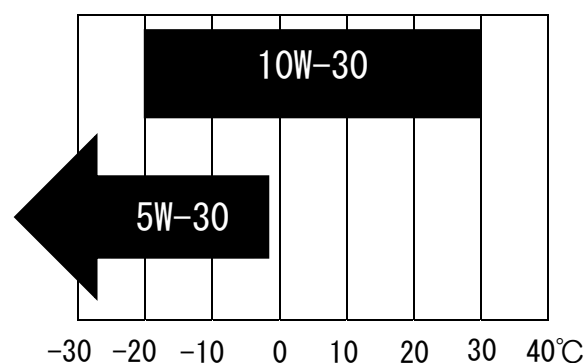
規定量：

全オイル容量：1.1 ℓ

オイル交換時容量：0.85～1.05 ℓ



オイル排油ボルト



⚠ 注意



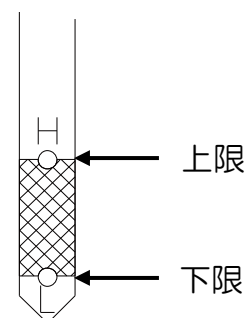
高温注意

エンジン停止直後はエンジンやオイルの温度が高く火傷をする恐れがあります。

十分に冷えてからオイル交換を行ってください。

交換のしかた

- 1) 除雪機を平坦な場所に置きます。
- 2) オイル受けを排油ボルトの下に置きます。
- 3) オイル注入口、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
- 4) しばらく放置してオイルが抜けたら
排油ボルトを締付けます。
- 5) 新しいオイルをオイルレベルゲージの
HとLの間まで注入します。
- 6) 注入後オイル注入口キャップを締付けます。



オイルレベルゲージ

⚠ 注意



法令違反

- 交換後のエンジンオイルは法令に従い適正に処理してください。
オイルを地面、排水口などに捨てる事は法令にて禁じられています。
不明な点はオイルお買い上げ店にご相談ください。

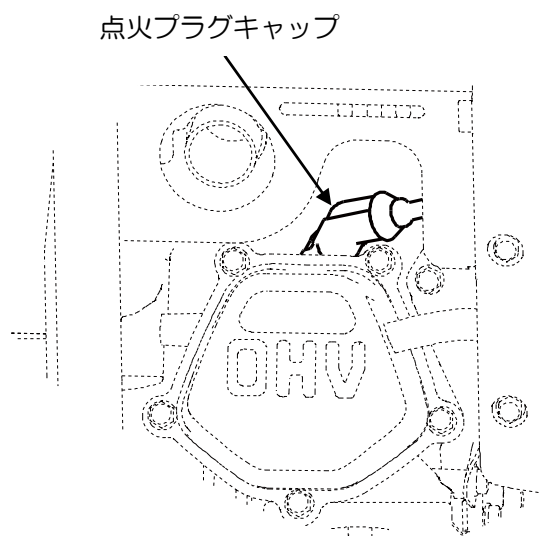


実施

- オイルは除雪機を使用しなくても自然劣化します。
定期的に点検、交換を行ってください。
- オイル注入口キャップは手で確実に締め付けてください。
締め付けが不十分だとオイルがにじむことがあります。

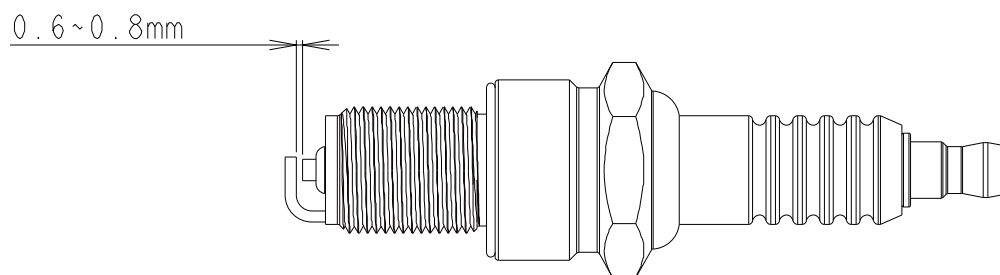
点火プラグの点検

点火プラグキャップを取り外し付属工具使用してスパークプラグを取り外します。



点火プラグを目視確認します。電極の摩耗、欠け等、異常がある場合には点火プラグを交換してください。

電極すきまをすきまゲージで測定します。すきまは 0.6mm～0.8mm が目安です。



点火プラグ品番：LG F6TC, NGK BP6ES, DENSO W16EP

点火プラグを取り付ける際には手でプラグを3～4回転まわし、ネジ山に問題が無いのを確認してから工具で点火プラグを締付けます。

指定締付けトルク：21N/m

⚠注意

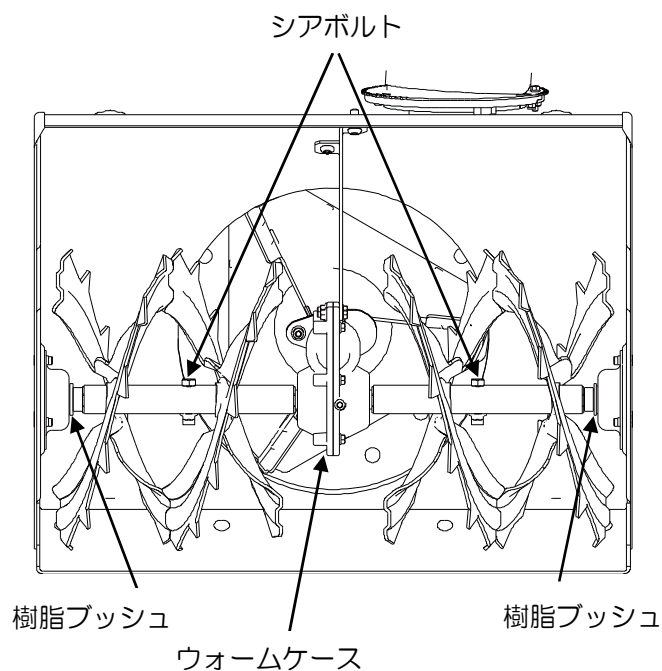


実施

点火プラグは確実に締付けてください。点火プラグが緩んだままエンジンを運転するとアイドリング不安定などのエンジン不調や故障の原因となります。

点火プラグを強く締付け過ぎてネジ山を壊さないように注意してください。

オーガ周辺のお手入れ



ウォームケース

ウォームケース内部はオイル潤滑式です。

通常オイル交換の必要はありません。

オイル：ハイポイドギアオイル 80W/90 API GL-5 相当品

ウォームケースオイル容量：約 55cc

シアボルト

シアボルトは消耗品です。オーガが固いものに当たったり、異物を大量に巻き込むとシアボルトが折れ他部分の破損を防ぎます。

⚠注意



実施

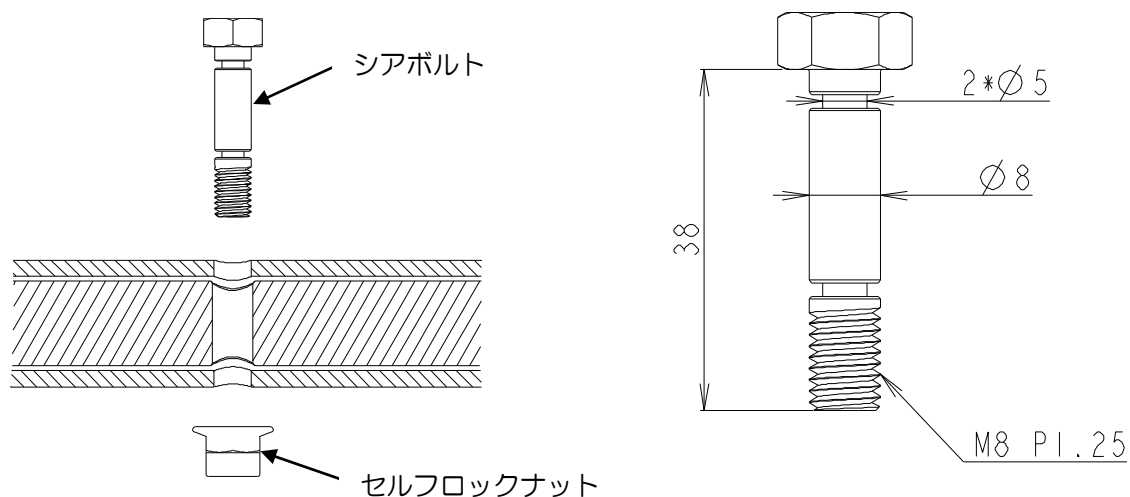
シアボルトを定期的に点検し曲がりがあるものは交換してください。



禁止

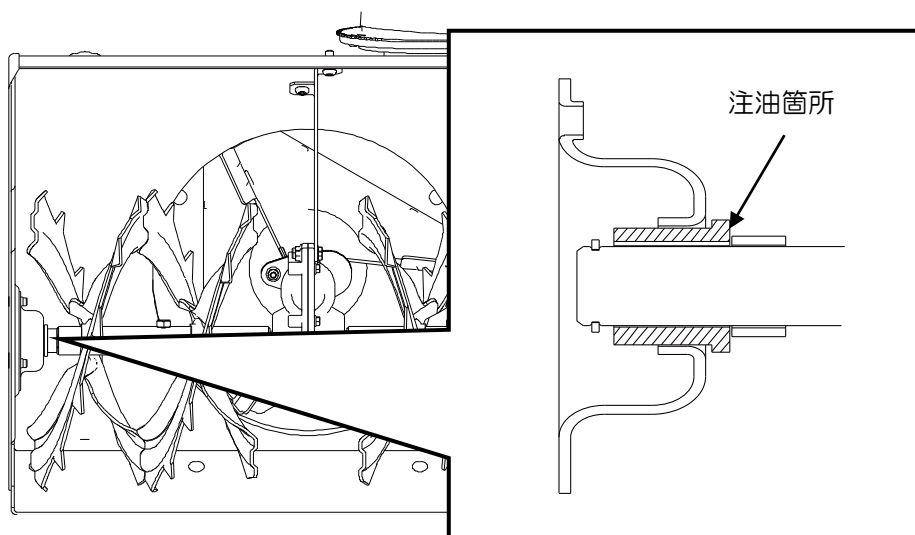
シアボルトを他の一般ボルトと交換しないでください。他の重要部分を破損するおそれがあります。

シアボルト略図



樹脂ブッシュ

樹脂ブッシュ 2 箇所は毎使用後、
シールチェーン用スプレー式潤滑剤で給油してください。

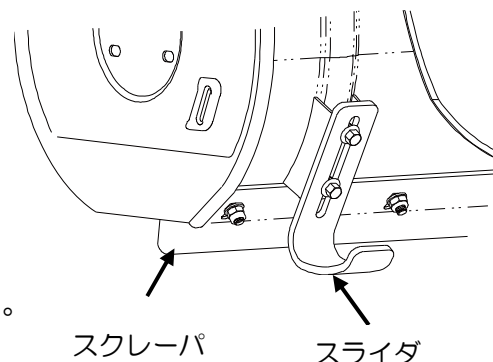


スクレーパとスライダ

スクレーパとスライダは消耗品です。

特に舗装が多く露出した場所を除雪した後は、

摩耗を確認して必要であれば調整、交換してください。



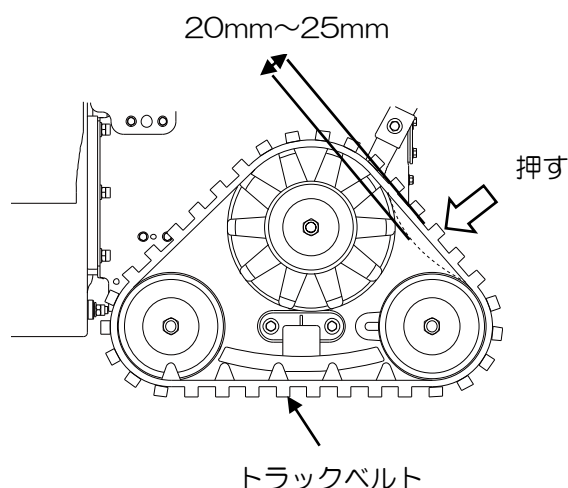
トラックベルト緊張状態

トラックベルトの張りが適正でないとトラックベルトが外れるなど、寿命が極端に短くなります。

点検時期：年 1 回除雪機使用開始前

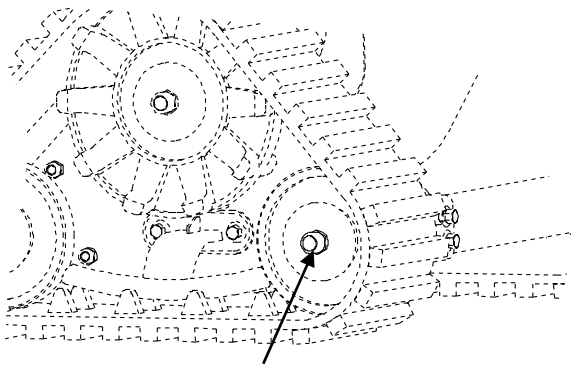
点検方法：トラックベルト後方を強く押した時にたるみが適正寸法になっているか確認します。

適正寸法：20mm～25mm

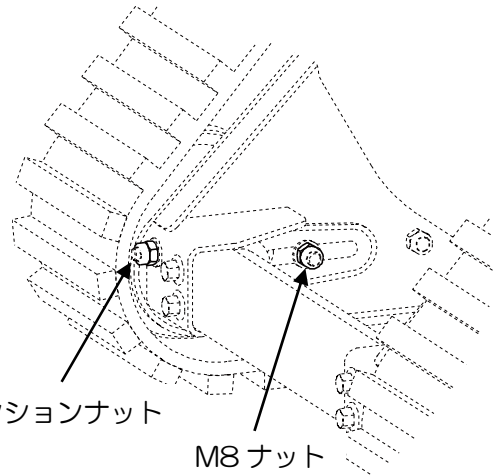


調整方法

- 1) ホイルロックナットと M8 ナットを緩めます。
- 2) テンションナットを回して調整します。
 右回転：トラックベルトは張る。
 左回転：トラックベルトはゆるむ。
- 3) 適正寸法になるように調整します。
- 4) 確実にホイールロックナットと M8 ナットを締め付けて下さい。
- 5) 左右が均等になるように調整します。



ホイールロックナット



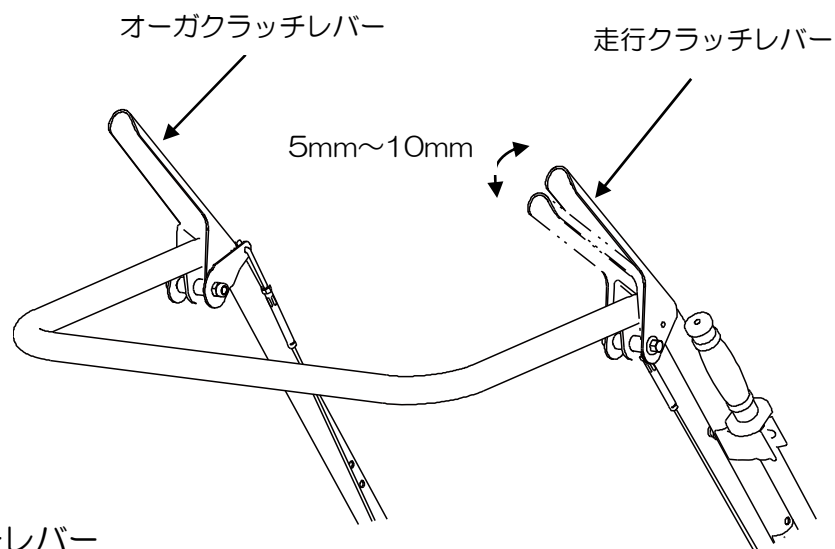
テンションナット

M8 ナット

各クラッチレバーの調整

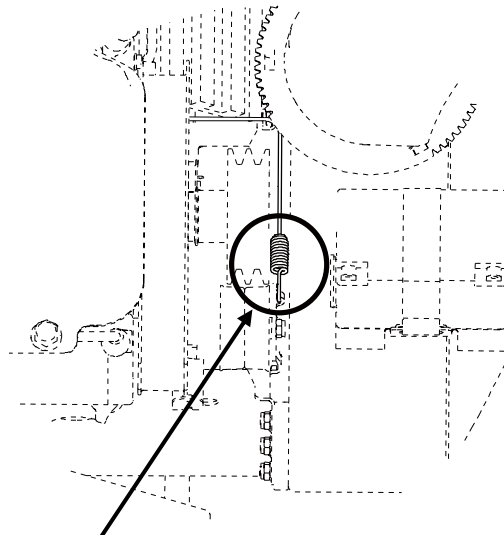
• 走行クラッチレバー

レバーの遊び : 5mm~10mm



• オーガクラッチレバー

オーガスプリングが4~5mm 伸びる程度

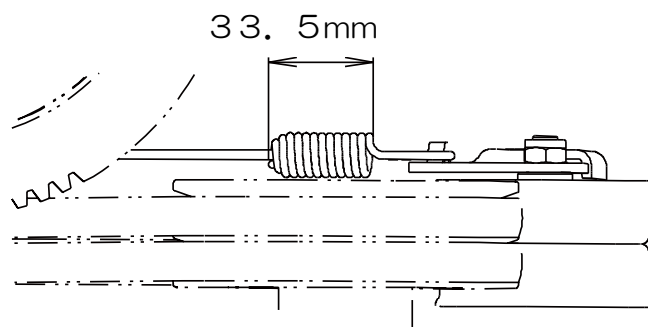


オーガスプリング

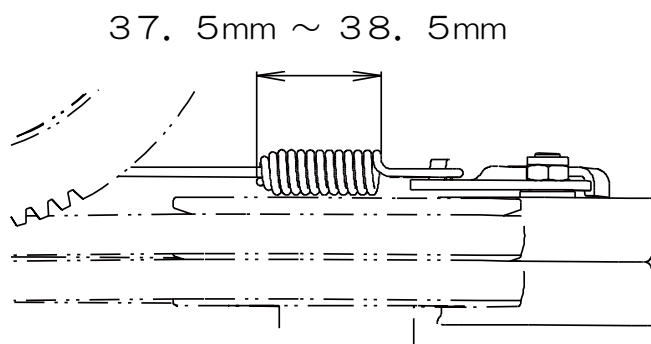
オーガクラッチレバーから手を離した状態からレバーをいっぱい握ったときにオーガスプリングが4～5mm 伸びるようにワイヤを調整します。

参考) オーガスプリング巻き長さ：33.5mm

レバーを握っていない時



レバーを握った時



⚠ 注意

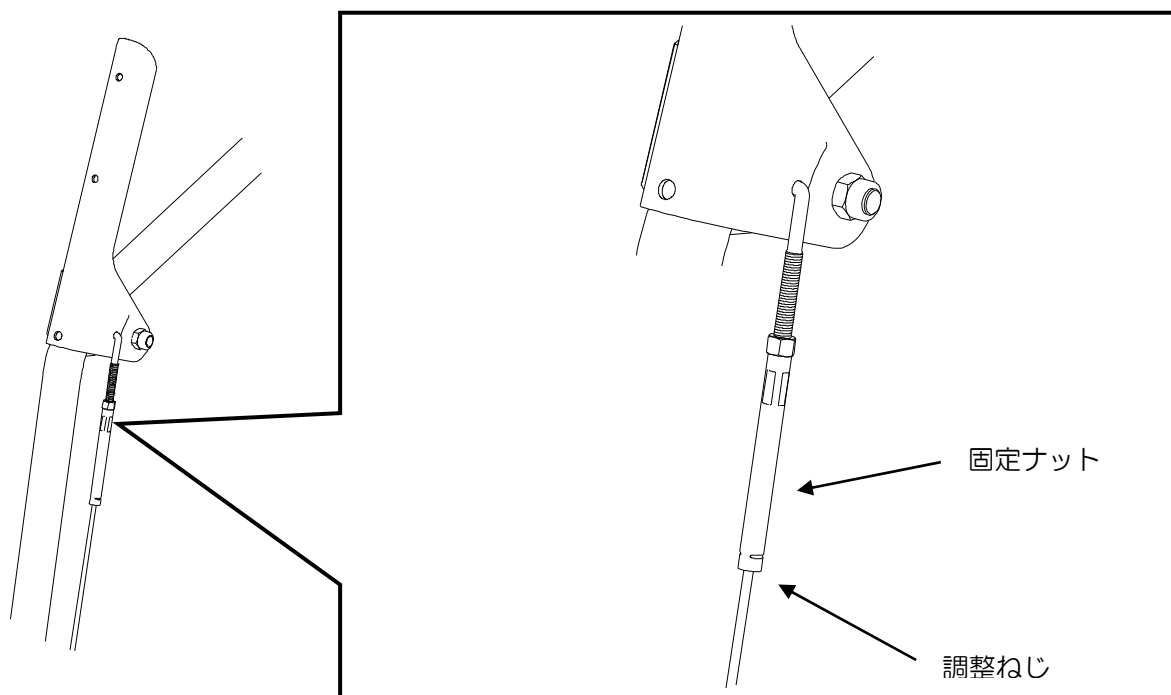


実施

レバーの遊びは多すぎても少なすぎても走行不良（走行しない、止まらない）、オーガ回転不良（回転しない、回転が止まらない）などの不具合を生じます。

レバーの遊びは必ず規定値内としてください。

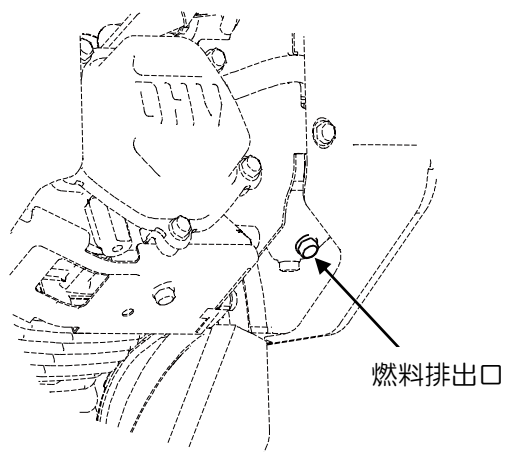
各レバーの遊びはワイヤの長さを変更することで調整します。



長期保管

除雪機を一ヶ月以上保管する場合は以下の項目を実施してください。

- ガソリントankとキャブレタからガソリンを抜きます。



- 燃料排出口の下に燃料回収用容器を置き、燃料開閉つまみを開（ON）位置にします。燃料排出口ボルトを緩めると燃料が排出されます。
- 燃料が完全に排出されるまでしばらく放置します。
- 燃料排出口ボルトを締め付け、回収した燃料を消防法に定められた容器に保管します。



ガソリンを取り扱う際には以下を守ってください。

- 常に換気を行う。

- 火気厳禁



火気厳禁

- 身体に帯電した静電気を除去する。除雪機や他車両の金属部分に触れると静電気を放電することができます。

- 静電気の放電火花が気化ガソリンに引火し火傷を負うおそれがあります。

- ガソリンをこぼさないよう注意して下さい。こぼれた場合には布などで完全に拭き取り引火に注意して処分してください。

- バッテリーの手入れ

保管時はバッテリー⊖端子を外して下さい。

バッテリーは使用しなくても放電します。

長期保管前と3ヶ月毎に補充電を行って下さい。



可燃性注意

バッテリーを取扱うさいには工具の接触、誤接続などによるショートに注意してください。火花の発生により周囲の可燃物に引火して火災の恐れがあります。



実施

本機はシールドバッテリーを使用しています。

バッテリーに膨張などの異常がある場合は使用を中止してください。

バッテリー端子への結線は確実に行ってください。接続時は⊕端子から接続し、取り外す場合は⊖端子からとりはずしてください。

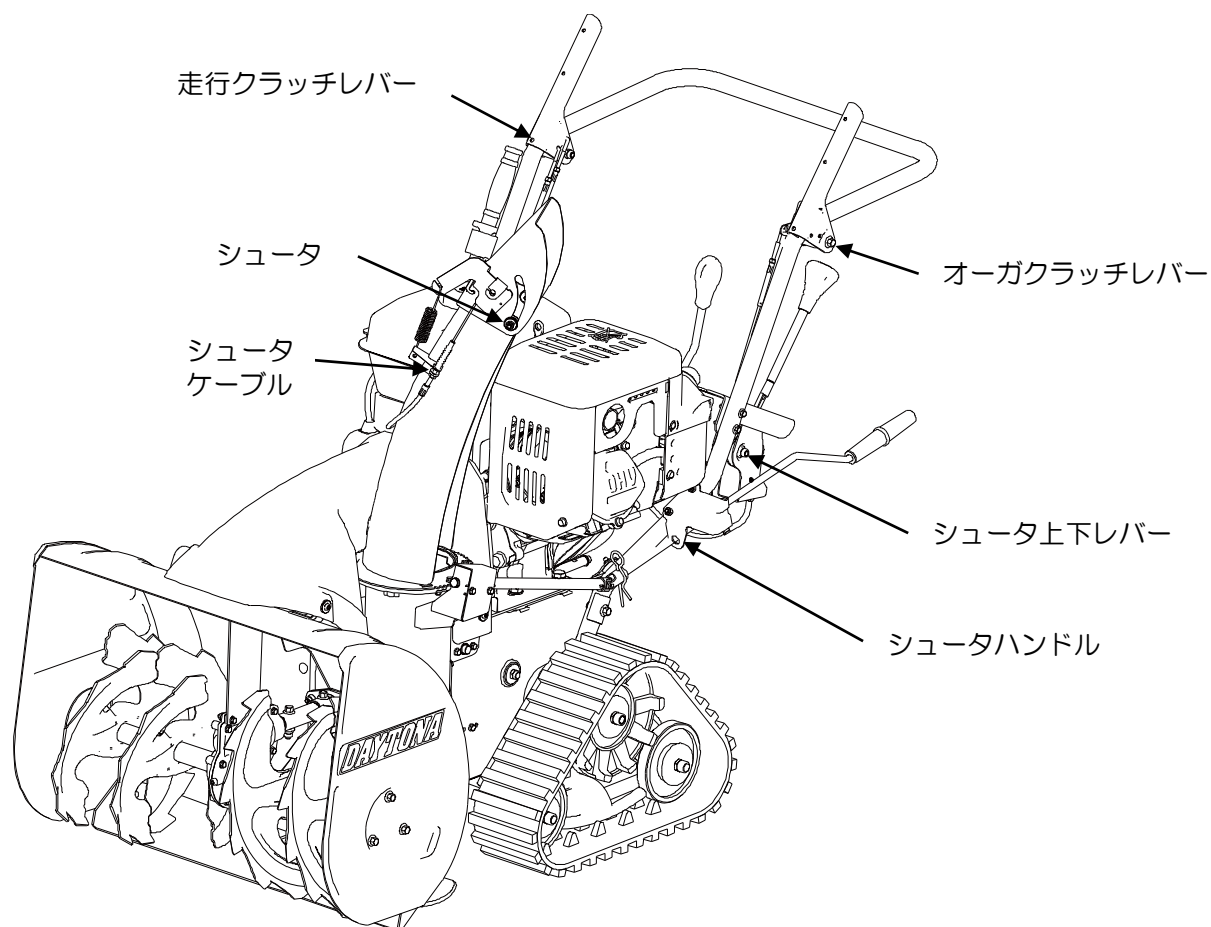
- 各部給油

走行クラッチレバー軸、オーガクラッチレバー軸

シュータハンドルガイド部、シュータ上下レバー軸

シュータ軸受/スライド部分

シュータケーブル内潤滑



- 防錆処理

除雪機を錆から守るため市販の防錆スプレーを除雪機全体に散布してください。特に下回りは凍結防止材の影響を受けやすいため念入りに行ってください。

- 保管場所

換気のよい乾燥した場所に保管してください。

8. 主 要 諸 元

名 称	DS-9260
タ イ プ	JN
形 式	DS-9260JN

エンジン

名 称	SN360
最 高 出 力	6.8kW(9.2PS)/3500rpm
排 気 量	357cm ³
内 径 × 工 程	83.0 × 66.0mm
始 動 方 式	セルフスタータ 及び リコイルスタータ
点 火 方 式	トランジスタ マグネット点火
オ イ ル 容 量	1.1ℓ （オイル交換時：0.85～1.05 ℓ）
燃料タンク容量	4ℓ
点 火 プ ラ グ	LG F6TC, NGK BP6ES, DENSO W16EP
バ ッ テ リ	12N9-BS

フレーム

全 長	1410mm
全 幅	608mm
全 高	1046mm
乾 燥 重 量	112kg
除 雪 幅	600mm
除 雪 高	400mm
投 雪 距 離	15m（雪質、気温、等雪方向によって異なります。）

諸元は予告なく変更することがあります。ご了承ください。

9. トラブルシューティング

問題	原因	解決方法
エンジンが始動しない	1. 始動方法が説明書と異なる 2. ガソリンが無い又は古い 3. 燃料コックつまみが OFF の位置になっている 4. 点火プラグの汚れ、濡れ、火花隙間不良 5. 緊急停止ノブが奥まで差し込まれていない	1. 説明書の始動手順にしたがう 2. 新しいガソリンを補給する 3. 燃料コックつまみを ON の位置にする 4. 点火プラグを新品に交換する。 5. 緊急停止ノブを奥まで確実に差し込む
自走しない	6. 走行クラッチレバーの遊びが多い 7. コグベルト切れ	6. 走行クラッチケーブルの張り調整 7. コグベルト交換
オーガが回転しない	8. オーガクラッチレバーの遊びが多い 9. シアボルト折れ 10. V ベルト切れ	8. オーガクラッチケーブルの張り調整 9. シアボルト交換 10. V ベルト交換
オーガの回転が止まらない	11. オーガクラッチレバーの遊びが少ない	11. オーガクラッチケーブルの張り調整
投雪しない	12. シュータが詰まっている 13. フロアファン固定ボルト折れ	12. エンジンを停止し、シュータとオーガフード内を雪かき棒で清掃。 13. フロアファン固定ボルト交換。

補修部品情報など製品に関する詳細は弊社ホームページをご覧ください。

改訂履歴

1. 2020年12月15日 オイル量訂正 正 1.1L 誤 0.6L

東証JASDAQ上場
株式会社

デイトナ 〒437-0226 静岡県周智郡森町一宮 4805

URL: <http://www.daytona.co.jp>

©デイトナ商品についてのご質問、ご意見は「フリーダイヤルお客様相談窓口」0120-60-4955 まで